

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年1～7組	教科	国語	科目	国語総合 A
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	テキストの読解だけでなく、背後に流れる現代の思想を理解し、主体的にもの を考えて解決していく姿勢を養う。				
教材	『精選国語総合 改訂版』(三省堂)				
副教材等	漢字テキスト 小論文トレーニング(第一学習社)				

1. 学習内容

国語は勉強しても仕方がないと思っているかもしれませんが、それは大きなまちがいです。
正しい方法で学習すれば、国語はどんどん成績が上がります。
評論文・随筆・小説というそれぞれの文章形態には、筆者からのメッセージが込められています。
授業を通して、そのメッセージを正確につかむための方法を学んで下さい。
また、相手の意見を聞き、自分の考えを正しく伝える力も養わなければなりません。授業では様々
な文章を書いてもらったり、討論をしてもらったりします。
書いた文章を推敲していくことで、表現力は格段に向上しますので、毎回の課題はきちんと提出し
て下さい。

2. アドバイス

- ・予習を指示された教材は、時間を計って予め問題を解きましょう。
- ・自分で工夫して復習しやすいノートを作りましょう。
- ・授業時は色分けしながら解説するので何色かのカラーペンがあるとよいでしょう。
- ・要約は自分の納得いく答案がかけるまで何度でもチャレンジしましょう。
- ・一つひとつの言葉にこだわるようになると、国語力は飛躍的にアップします。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・小テスト ・朝テスト ・課題（レポート、小論文） ・ノート提出 ・授業を受ける姿勢 ・読書ノート
- ・その他（小論文提出は必須。文学史は定期テストに出題。朝テスト、読書ノートも成績に換算）

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	評論入門	17	評論	「待つということ」 鷲田清一	・レトリックに基づいた読解ができる。 ・抽象と具体の区別ができる。 ・文章の全体的な構成がつかめる。	☐ ☐ ☐
		51	評論	「言語は色眼鏡である」 野元菊雄	・指示語の内容を正確に指摘できる。 ・本文が要約できる。	☐ ☐
			問題演習	スタディーサポート	・正しい読解の方法を理解できる。 ・選択肢の選び方を身につけられる。	☐ ☐
			文学史 読書記録	明治の文学史	・時代・作者・作品名・主義がわかる。	☐
1学期期末考査	正義と悪・エゴイズム	22	小説	「羅生門」 芥川龍之介	・感情描写を読み取る。 ・情景描写を読み取る。 ・書き手の視点を意識する。 ・時間経過を意識する。 ・場面設定を把握する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			問題演習	進研模試	・正しい読解の方法を理解できる。 ・選択肢の選び方を身につけられる。 ・記述の答え方のポイントがわかる。	☐ ☐ ☐
			文学史	明治・大正の文学史①	・時代・作者・作品名・主義がわかる。	☐
			小論文 読書記録	「小論文トレーニング」	・構成を考えることができる。 ・正しい表記をすることができる。 ・論拠に基づく意見が述べられる。	☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	小説の読解・詩	89	小説	「青が消える」 村上春樹	・村上春樹についての知識を深める。 ・感情描写を読み取る。 ・情景描写を読み取る。	☐ ☐ ☐
		70	詩	「サーカス」中原中也	・グループで調べ学習を行い発表する。	☐
			問題演習	スタディーサポート 進研模試	・正しい読解の方法を理解できる。 ・選択肢の選び方を身につけられる。 ・記述の書き方を身につけられる。	☐ ☐ ☐
			文学史 読書記録	韻文の文学史	・時代・作者・作品名・主義がわかる。	☐
2学期期末考査	労働の本質・生命とは	166	評論	「なぜ私たちは労働するのか」内田樹	・レトリックに基づいた読解ができる。 ・抽象と具体の区別ができる。 ・文章の全体的な構成がつかめる。 ・本文が要約できる。	☐ ☐ ☐ ☐
		172	評論	「命は誰のものなのか」 柳澤桂子	・文章の全体的な構成がつかめる。 ・筆者の意見から自分の意見を展開し、 それをもとにディベートを行う。	☐ ☐
			問題演習	進研模試	・正しい読解の方法を理解できる。 ・選択肢の選び方を身につけられる。 ・記述の書き方を身につけられる。	☐ ☐ ☐
			文学史 読書記録	明治・大正の文学史② (鷗外と漱石)	・時代・作者・作品名・主義がわかる。	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	羞恥心と自尊心		小説	「山月記」中島敦 (高2の教科書より)	・感情描写を読み取る。 ・情景描写を読み取る。 ・書き手の視点を意識する。 ・時間経過を意識する。 ・場面設定を把握する。	☐
			問題演習	進研模試	・正しい読解の方法を理解できる。 ・選択肢の選び方を身につけられる。 ・記述の書き方を身につけられる。	☐
			文学史	昭和の文学史	時代・作者・作品名・主義がわかる。	☐
			小論文	小論文トレーニング	・構成を考えることができる。 ・正しい表記をすることができる。 ・論拠に基づく意見が述べられる。	☐
			読書記録			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年	教科	国語	科目	国語総合B
				単位数	3
「学び」の 目標とねらい	古典作品を読解するための基礎基本を身につける。				
教材	『精選 国語総合 改訂版』(三省堂)				
副教材等	【必携】 『古語辞典(デジタル版)』(三省堂) 『必修古典文法』、『古典文法ベーシックノート』(文英堂)、 『漢文必携』、『漢文必携チェックノート 基本編』(桐原書店)				

1. 学習内容

- ・古典における「文法」「語彙」「常識」といった“道具”の扱いに習熟し、古典読解のための基礎力を養成する。
- ・ハイレベルクラスでは模試過去問等の演習を適宜行う。

2. アドバイス

- ・予復習は必須。字間、行間を広くとって本文を写し、可能な限りの現代語訳をして授業に臨むこと。これに自分で工夫を加え、復習しやすいノートを作成する。
- ・復習時には、本文を音読する。何度も、繰り返し、暗唱するほど音読する。
- ・日々の積み重ねこそが、古典読解の高みへ登るための礎となる。地道な学習を大切にし、自らの手で有意義なものとせよ。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査、平常点(課題・授業態度)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	用言・訓点		古文 入門 漢文 入門	『宇治拾遺物語』など 『訓読の基礎』『格言』など	歴史的仮名遣い 用言 訓読の基礎	☐ ☐ ☐
1学期期末考査	助動詞・句法		古文 説話 漢文 故事成語	『今昔物語集』など 『唐詩紀事』など	用言 助動詞 否定形 再読文字	☐ ☐ ☐ ☐
夏						
2学期中間考査	助動詞・句法		古文 物語 漢文 故事成語	『伊勢物語』など 『戦国策』など	助動詞 助詞 再読文字 疑問形	☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	助詞・句法		古文 和歌 漢文 小説	『万葉集』、『古今集』、『新古今集』など 『搜神記』など	助動詞 助詞 反語形	☐ ☐ ☐
冬						
3学期学年末考査	敬語・句法		古文 日記・随筆 漢文 史話	『土佐日記』『徒然草』など 『十八史略』など	敬語 使役形 受身形	☐ ☐ ☐
春						

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	公民	科目	現代社会
				単位数	2
「学び」の 目的とねらい	多くの知識を吸収し、現代社会の様々な諸問題に関心を持ち、自ら考えて、判断を下し、行動できる。				
教材	『高等学校 改訂版 現代社会』 第一学習社				
副教材等					

1. 学習内容

現代社会の学習領域には主に、政治分野、経済分野があります。前半が政治分野、後半が経済分野となります。3 学期には青年期と思想史の学習をおこないます。週 2 単位(時間)ですが、配布教材を利用して、その週に学習した範囲を見直すことによって、定着を図ります。中学で学習した内容をさらに深く、幅広く学習いたします。日頃からニュースなどをみて興味・関心を持つよう心がけてください。

2. アドバイス

【予習】特に必要ありませんが、前回の授業のノートやプリントを見直してください。

【復習】授業内配布の問題を、次の授業までにやりましょう。授業中に答え合わせは行いません。わからなかった箇所は質問して各自で勉強するよう心がけてください。

【その他】①ノートをとることも大事ですが、授業の内容を理解することはもっと大切です。ノートをとることはあくまでも記憶の補助です。②始業ベル前に授業に必要なもの一式を机の上に用意しておきましょう。③授業中の疑問点は、なるべくその日のうちに解決しましょう。④プリントが多く配布されます。バインダーなどを利用して整理しておきましょう。⑤準拠プリントをチェックシートで提出状況を確認し、平常点として評価します。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

教科書準拠プリント、授業内小テスト、宿題・課題

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期中間考査	第2章 個人の尊重と法の支配 ／ 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	52-55	1 民主政治における個人と国家	私たちと政治、政治と国家、近代国家の思想	ホッブス、ロック、ルソー、モンテスキュー	☐
		56-63	2 基本的人権と法の支配	法の支配 国民主権と権力分立 基本的人権の考え方	国家からの自由、国家による自由 国際連合憲章、	☐
		64-67	世界のおもな政治体制	人権の国際化	世界人権宣言、国際人権規約	☐
		68-71	1 日本国憲法の基本原理	明治憲法下の政治 日本国憲法の成立 日本国憲法の基本原理	ポツダム宣言、GHQ、マッカーサー草案、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義	☐
		72-81	2 平和主義と安全保障	平和主義の理念 戦争の放棄 自衛隊の創設、自衛隊と憲法第9条 日米安全保障条約 日本の防衛政策	平和的生存権、戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認 朝鮮戦争、警察予備隊、保安隊、自衛隊、サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約 統治行為論、非核三原則	☐
		82-96	3 基本的人権の保障と新しい人権	人権保障、自由権、社会権、参政権、 法の下での平等 新しい人権 公共の福祉	自由権、社会権、参政権、請求権、プログラム規定説 国民審査、法の下での平等 幸福追求権、環境権、知る権利、アクセス権、プライバシーの権利公共の福祉	☐
		97-125	4 国民主権と議会制民主主義	国民主権と議会制民主主義 国会の地位と運営と権限、衆議院の優越	国民主権、議会制民主主義 国権の最高機関、二院制、内閣不信任決議権、衆議院の優越、衆議院の解散、総辞職	☐
			5 内閣と行政の民主化	内閣と議院内閣制、内閣の権限	行政委員会、行政改革	☐
			6 裁判所と人権保障	司法権の独立 国民の権利と裁判 憲法の番人 司法制度改革	司法権の独立、国民審査、三審制、違憲法令審査権、統治行為論、裁判員制度	☐
			7 地方自治と住民の福祉	地方自治の組織と運営、地方自治の課題	地方自治の本旨、団体自治、住民自治	☐
1 学期期末考査			8 世論形成と政治参加	さまざまな選挙制度	選挙の4大原則、小選挙区制、比例代表制	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄	
2学期中間考査	第4章 国際政治の動向と日本の役割／第5章 現代の経済社会と私たちの生活	126-155	1 国家主権と国際法	勢力均衡と集団安全保障	主権国家、グロティウス、勢力均衡、集団安全保障	☐	
			2 国際連合の役割	国際連合の成立と目的、国際連合の役割	国際連合の成立 総会、安全保障理事会、常任理事国、拒否権、ヤルタ会談、トルーマンドクトリン、NATO、	☐ ☐	
			3 今日の国際社会	第二次世界大戦後の国際社会、	WTO、第三世界	☐	
			4 核兵器の廃絶と国際平和	冷戦終結後の国際社会 軍縮と核兵器廃絶への道、	PTBT、NPT、SALT、START、SDI、MD 構想、INF 全廃条約、	☐ ☐	
			5. 地域紛争と人種・民族問題	冷戦終結後の核開発	CTBT、戦略核兵器削減条約	☐	
			6. 国境と領土問題				
			7. 外交政策と日本役割	資本主義経済の特質と変容、社会主義経済体制の特質と変容	アダム・スミス、自由放任主義、ケインズ、修正資本主義	☐ ☐	
		156-170	1. 経済社会と経済体制	企業の役割と社会的責任、 株式会社のしくみと活動 多国籍企業の活動	マルクス、ペレストロイカ 企業、家計、政府 株式会社、有限責任、所得と経営の分離	☐ ☐ ☐	
			2. 現代の企業	市場のしくみ、競争と独占・寡占、市場の失敗	多国籍企業、コングロマリット 需要、供給、価格の自動調整作用、市場の失敗	☐ ☐	
			3. 市場経済のしくみ				
			170-194	4. 経済成長と景気変動	フローとストック、 景気変動経済成長と国民の福祉	GDP、景気循環、ポリシーミックス、経済成長率	☐
				5. 政府の経済的役割と租税の意義	財政のしくみ、財政政策 租税の意義と課題	資源配分の機能、所得再分配の機能、景気調整の機能 自動安定化装置、財政政策	☐ ☐
				6. 金融機関のはたらき	金融市場のしくみと金融機関のはたらき	発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行、管理通貨制度	☐
					日本銀行の役割と金融政策	公開市場操作、預金準備率操作	☐
7. 戦後の日本経済	戦後の復興 高度経済成長 経済のバブル化と崩壊後の不況	農地改革、財閥解体、労働の民主化、傾斜生産方式、ドッジライン、高度経済成長、スタグフレーション、経済摩擦、円高不況、バブル経済		☐ ☐ ☐			
2学期期末考査							

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3 学期学年末考査	第6章 国際経済の動向と日本の役割 ／ 第1章 現代に生きる青年 ／ 第7章 現代に生きる倫理	222-239 5 回	1 国際経済のしくみと貿易の拡大	国際分業と貿易 国際貿易体制の展開 国際収支の動向 国際通貨制度の変容 外国為替相場の動き IMF の新しい役割	国際分業、リカード、比較生産費説、リスト GATT、WTO 国際収支 IMF、IBRD、ブレトンウッズ体制、固定相場制、変動相場制	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			2. 進む経済統合	地域的経済統合	FTA、EPA EU、NAFTA、MERCOSUR	☐ ☐
			3 国際経済の動向	日本の貿易 アメリカ経済の動向 中国経済の発展 発展する世界経済	為替相場アジアの通貨危機 経済摩擦、アジア NIES サブプライムローン、世界同時不況、改革開放政策、社会主義市場経済、BRICS	☐ ☐ ☐ ☐
		38-51 3 回	現代に生きる青年	青年期とは、青年期補 発達課題、防衛機制	マージナルマン、アイデンティティ、心理的離乳、防衛機制	☐
			1. 青年期の意義と自己形成の課題	職業意識	男女共同参画社会基本法	☐
			2. 現代社会における青年期の生き方	社会への参画	ジェンダー	☐
			3. 伝統や文化と私たちの生活	祭りと年中行事 異文化との共生	通過儀礼、年中行事 恥の文化、和の精神	☐ ☐
		248-245 4 回	現代に生きる倫理	古代哲学史、三大宗教	エスノセントリズム ソクラテス、プラトン、アリストテレス	☐ ☐
			1 豊かな人生を求めて	古代から近代の日本思想	仏教伝来、鎌倉仏教、儒学、国学	☐
			2 日本の伝統的なものの考え方	西洋哲学史	経験論、合理論、社会契約説 ドイツ観念論哲学、功利主義	☐ ☐
			3 西洋の自然観と人間観	現代哲学	実存主義、プラグマティズム 大衆社会論、生命への畏敬 ケイパビリティ	☐ ☐ ☐
			4. 現代に生きる人間の倫理			☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年1～8組	教科	地理歴史	科目	世界史B
				単位数	2
「学び」の 目的とねらい	個々の表層的な歴史的事実のみではなく、その奥にある歴史の潮流(背後にあるもの)を把握・理解できるようになる。				
教材	『詳説世界史B』 山川出版社				
副教材等	【必携】『最新世界史図説タペストリー(十八訂版)』帝国書院 『詳説世界史B10 分間テスト』山川出版社 【あると便利なもの】 『世界史B用語集』 山川出版社 ※ プリント授業ですので、プリントを保管するファイルを用意しておきましょう。				

1. 学習内容

猿人の登場から現代に至るまでの世界の歴史を3カ年かけて学習します。1年次の世界史Bではヨーロッパ中世まで、2年次の世界史Bではそれ以降の地中海・欧米史を学習します。産業革命(1700年代後半)以降の近現代地中海・欧米史、そして東洋史・アフリカ史については、3年次の世界史演習(文系クラスの選択科目)において扱います。

プリント授業です。教科書レベルを超える内容で、授業にしっかりと取り組み復習もすれば、難関国公立大学の論説問題を除く入試問題には十分に対応できます。スタンダードクラスとハイレベルクラスとで進む速さ自体は変わりません。

授業時には毎回「5問テスト」という小テストを行い、知識の整頓を行います。小テストの成績が基準に達しない場合には寺子屋を実施します。

2. アドバイス

定期考査の2週間前になって対策学習を始める人がいますが、日々の予習・復習こそが最大の定期考査対策です。特に復習は、時間で区切るのではなく、その回の授業内容を他の人に説明できるようになるまで(つまり授業内容を「理解」できるまで)やってください。

- ①プリントの空欄の穴埋めにとどまらず、周辺知識を記入しましょう。なお、周辺知識は一度頭の中で整頓した上、自分の言葉で書くようにしましょう。
- ②始業ベル前に、机の中は空にし、授業に必要なもの一式を机上に用意しておきましょう。
- ③そもそも学習意欲に欠ける者は学校から去りましょう。義務教育ではありません。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査(『詳説世界史B10 分間テスト』の指定した範囲からも出題します。)
 平常点(授業態度・小テスト)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	先史・古代地中海世界史	10-13	人類の出現	1・人類の進化 2・文明以前の現生人類	各人類の特色 中石器・新石器・青銅器時代の特徴	☐ ☐
		16-27	古代オリエント	3・エジプトとメソポタミア 4・古代オリエント概要 5・古代前半オリエント史 6・メソポタミア周辺とシリア 7・古代オリエントの統一	エジプトとメソポタミアとの差異 民族・国家名および大まかな順序 エジプト史・メソポタミア史の流れ フェニキア・アラム・ヘブライ史 アッシリア→4 王国分立→ペルシアの流れ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査		27-29	古代エーゲ文明	8・古代エーゲ文明	クレタ文明・トロイア文明・ミケーネ文明	☐
		29-35	ポリス文明	9・ポリスの成立と発展 10・スパルタ・アテネとペルシア戦争	ポリスの構造と生活 スパルタの特色 アテネの民主政の発展 ペルシア戦争の流れ	☐ ☐ ☐ ☐
		35・36	ヘレニズム	11・ポリスの衰退とヘレニズム世界	ポリスの衰退とマケドニアの台頭 大王の東方遠征の歴史的意義	☐ ☐
		36-40	ギリシア文化	12・ギリシア哲学 13・ギリシア文化	自然哲学→三大哲学者→ヘレニズム哲学の流れ ギリシア文学・歴史・建築	☐ ☐
		2学期中間考査	40-47	古代ローマ史	14・共和政ローマ 15・ローマの海外遠征と内乱 16・三頭政治とローマ帝国 17・古代ローマの終焉	ローマ史の6区分の把握 都市国家～イタリアの統一 貴族と平民の政治的平等の実現 領土の拡大と統治のしくみ 内乱の1世紀 第1回・第2回三頭政治 元首政の開始～五賢帝時代 軍人皇帝→ディオクレティアヌス→
47-48			キリスト教の成立	18・キリスト教の成立と発展	コンスタンティヌス→テオドシウスの流れ	☐
49-51			ローマ文化	19・ローマ文化	イエスの思想と使徒の活動 ローマ帝国の対応の変化 キリスト教の分派 実用文化と主な文化人	☐ ☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
2学期期末考査	古代・中世西アジア史・中世ヨーロッパ史	25-27	パルティアとササン朝	20・古代イラン文明	パルティアとササン朝	☐
		100-111	イスラーム世界の成立と発展	21・イスラーム教のはじまり	イスラーム教の基礎知識 イスラーム教の成立と拡大	☐
				22・イスラーム帝国の成立	正統カリフ→ウマイヤ朝→アッバース朝の流れ	☐
				23・イスラーム国家の興亡	時代・地域・民族ごとのイスラーム国家の変遷とその特色	☐
		115-119	イスラーム文化史	24・イスラーム文化	固有の学問と外来の学問 それぞれの人物の業績と地域	☐
						☐
		120-132	中世ヨーロッパ史(前期)	25・ゲルマン人の大移動	ゲルマン民族の大移動の要因 部族ごとの建国地	☐
				26・フランク王国の盛衰と中世諸国家の成立	カール大帝の業績 フランク王国分裂により成立した諸国家 ヴァイキングの移動により成立した諸国家	☐
						☐
						☐
						☐
						☐
3学期学年末考査	中世ヨーロッパ史		中世ヨーロッパ史(前期)	27・イギリスの形成と封建社会	イギリスの形成 封建制度と荘園制度の特徴	☐
				28・ローマカトリック教会の発展	基本的なキリスト教用語 東西教会の分裂 修道院による教会改革 教皇権が確立する過程	☐
						☐
						☐
						☐
			中世ヨーロッパ史(後半)	30・中世の都市と商業	中世都市名・商業圏名 中世都市の特色	☐
				31・封建社会の崩壊と教皇権の衰退	封建社会崩壊の過程 王権と教皇権の関係の変化	☐
				32・英仏百年戦争	イギリス身分制議会の発達 百年戦争とバラ戦争の流れ	☐
				33・中世後半の西欧諸国	英仏とは対照的に独伊の分裂が進行していく様子	☐
						☐
						☐
						☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 2・3・4 組 スタンダード	教科	数学	科目	数学Ⅰ
				単位数	4
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学Ⅰ Advanced(東京書籍)・数学Ⅱ Advanced(東京書籍)				
副教材等	HI-PRIMEⅠ+A、HI-PRIMEⅡ+B(ともに東京書籍) はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ、数学Ⅱ(ともに数研出版)				

1. 学習内容

数学 I から「集合と論証」、「2次関数」、「図形と計量」、数学 II から「三角関数」、「方程式・式と証明」を学びます。

「集合と論証」・・・集合の共通部分・和集合・空集合を学び、必要条件・十分条件や命題の逆・裏・対偶と背理法を扱います。

「2 次関数」・・・2 次関数の最大・最小、2 次不等式をグラフを利用して解く方法を学んでいきます。

「図形と計量」・・・三角比・正弦定理等を学び、平面図形や空間図形の面積・体積の求め方を扱います。

「三角関数」・・・三角比より一般角を定義し発展させます。(数学 II)

「方程式・式と証明」・・・虚数解をもつ方程式や解と係数の関係等、方程式を深く学びます。(数学 II)

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとやるのが大切です。計算が苦手な人も得意な人も、まずは授業でしっかりノートをとって復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・小テスト
- ・朝テスト
- ・宿題・課題
- ・ノート提出
- ・授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期中間考査	2 章 集合・論証	50 56	1 集合	①集合 ②補集合とド・モルガンの法則	集合の表し方・部分集合 共通部分・和集合 空集合・補集合・全体集合 ・モルガンの法則	☐ ☐ ☐
		57 62	2 命題と論証	①命題と条件 ②論証	命題・真偽・仮定と結論・反例必要十分条件 命題と対偶(を利用した証明) 背理法	☐ ☐
	3 章 2 次関数	71	1 関数とグラフ	①関数	$y = f(x)$ 、 $y = f(a)$ 、関数の値 直線 $x = k$ 、直線 $y = k$	☐ ☐ ☐
		76		②2次関数とそのグラフ	関数の定義域・値域、最大値・最小値 2次関数、放物線、軸、頂点 下に凸、上に凸、平方完成	☐ ☐ ☐
		83		③2次関数の最大・最小	2次関数の平行移動させたグラフ 2次関数の最大値・最小値 定義域が与えられたときの最大値・最小値	☐ ☐ ☐
		88		④2次関数の決定	最大・最小の応用 条件から2次関数を決定する 連立3元1次方程式	☐ ☐ ☐
		94	2 2次方程式・2次不等式	②2次方程式の解法	2次方程式の解の公式 2次方程式の x の係数が偶数の解法	☐ ☐
		96		②2次方程式の実数解の個数	実数解、重解、判別式D Dの符号と2次方程式の実数解の個数	☐ ☐
		98		③2次関数のグラフとx軸の共有点	2次関数のグラフとx軸の共有点のx座標 2次関数のグラフとx軸の位置関係 接する、接点	☐ ☐ ☐
	1 学期期末考査					

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期期末 考查	3章 2次関数	102	2 2次方程式・ 2次不等式	④2次不等式	1次関数のグラフと1次不等式	☐
		109		⑤2次不等式の応用	2次関数のグラフを用いた2次不等式の解 解がすべての実数であるような2次不等式 2次不等式のまとめ 連立不等式 2次不等式の応用 2次不等式の解の符号	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	4章 図形と計量	118 118 124	1 鋭角の三角比	①直角三角形と三角比 ②正接・正弦・余弦 ③三角比の相互関係	正接、 $\tan A$ 、仰角、俯角 正弦 $\sin A$ 、余弦 $\cos A$ 、正接 $\tan A$ 図形への応用、三角比の表 1つの三角比の値から他の三角比を求める ($90^\circ - \theta$ の三角比	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		128 134		①三角比と座標 ②三角比の性質	三角比の座標による定義、鈍角の三角比 単位円、直線の傾きと正接 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ のときの三角比の相互関係 1つの三角比の値から他の三角比を求める ($180^\circ - \theta$ の三角比	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		138 142	3 三角形への応用	①正弦定理 ②余弦定理	外接円、正弦定理 余弦定理 2辺と1角が与えられた場合 3辺が与えられた場合 三角形の辺と角の大きさ 鋭角三角形、鈍角三角形 最大角、三角形の決定 三角形の面積の公式 3辺の長さから面積を求める 円に内接する四角形の面積	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		146		③三角形の面積		☐
2 学期中間 考查						

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	4章図形と計量	149	4 図形の計量	④空間図形の計量	正四面体、立方体、直方体の計量 平面図形の相似・相似比・面積比 立体の相似・相似比・表面積比・体積比	☐ ☐ ☐
2学期期末考査	3章 三角関数(数学Ⅱ)	110	1 三角関数	①一般角	弧度法 扇形の弧の長さや面積	☐ ☐
		113		②三角関数	三角関数の定義 単位円	☐ ☐
		116		③三角関数の性質	三角関数の相互関係 $\theta + 2n\pi$ の三角関数 $\theta + \frac{\pi}{2}$ 、 $\theta + \pi$ の三角関数	☐ ☐ ☐
		120		④三角関数のグラフ	三角関数のグラフ グラフの周期性や対称性 いろいろな三角関数のグラフ	☐ ☐ ☐
		126		⑤三角関数の応用	三角方程式・不等式	☐
		132	2 加法定理	①加法定理	加法定理の証明 15° 75° 105° 165° の値	☐ ☐
		137		②加法定理の応用	2倍角の公式 半角の公式	☐ ☐
		140		③三角関数の合成	合成の方法 関数の最大・最小	☐ ☐
						☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	1章方程式・式と証明(数学Ⅱ)	6	1 整式の乗法・除法と分数式	① 式の乗法と因数分解	3次の乗法公式と因数分解	☐
		8		②二項定理	二項定理の理解 パスカルの三角形	☐
		12		③整式の除法	除法の演算 整式と商・余りの関係	☐
		15		④分数式とその計算	約分・通分 加法・減法・乗法・除法	☐
		21	2 二次方程式	①複素数と演算	複素数の加法・減法・乗法・除法	☐
		26		②解の公式	解の公式 判別式 解と係数の関係	☐
		30		③解と係数の関係	2次式の因数分解 与えられた2数を解とする2次方程式 2次方程式の実数解の符号	☐
						☐
						☐
						☐

ハイレベルクラスは難度の高い問題を行う。スタンダードクラスは基本問題から応用問題まで行う

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1 組 ハイレベル	教科	数学	科目	数学Ⅰ
				単位数	4
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学Ⅰ Advanced(東京書籍)・数学Ⅱ Advanced(東京書籍)				
副教材等	HI-PRIMEⅠ＋A、HI-PRIMEⅡ＋B(ともに東京書籍) はぎ取り式練習ドリル 数学Ⅰ、数学Ⅱ(ともに数研出版)				

1. 学習内容

数学 I から「集合と論証」、「2 次関数」、「図形と計量」、数学 II から「三角関数」、「方程式・式と証明」を学びます。

「集合と論証」・・・集合の共通部分・和集合・空集合を学び、必要条件・十分条件や命題の逆・裏・対偶と背理法を扱います。

「2 次関数」・・・2 次関数の最大・最小、2 次不等式をグラフを利用して解く方法を学んでいきます。

「図形と計量」・・・三角比・正弦定理等を学び、平面図形や空間図形の面積・体積の求め方を扱います。

「三角関数」・・・三角比より一般角を定義し発展させます。(数学 II)

「方程式・式と証明」・・・虚数解をもつ方程式や解と係数の関係等、方程式を深く学びます。(数学 II)

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとやるのが大切です。計算が苦手な人も得意な人も、まずは授業でしっかりノートをとって自宅で復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・小テスト ・朝テスト ・宿題・課題 ・ノート提出
・授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期中間考査	2 章 集合・論証	50 56	1 集合	①集合 ②補集合とド・モルガンの法則	集合の表し方・部分集合 共通部分・和集合 空集合・補集合・全体集合 ・モルガンの法則	☐ ☐
		57 62	2 命題と論証	①命題と条件 ②論証	命題・真偽・仮定と結論・反例必要十分条件 命題と対偶(を利用した証明) 背理法	☐ ☐
	3 章 2 次関数	71	1 関数とグラフ	①関数	$y = f(x)$ 、 $y = f(a)$ 、関数の値 直線 $x = k$ 、直線 $y = k$ 関数の定義域・値域、最大値・最小値	☐ ☐ ☐
		76		②2次関数とそのグラフ	2次関数、放物線、軸、頂点 下に凸、上に凸、平方完成 2次関数の平行移動させたグラフ	☐ ☐ ☐
		83		③2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値 定義域が与えられたときの最大値・最小値	☐ ☐
		88		④2次関数の決定	最大・最小の応用 条件から2次関数を決定する 連立3元1次方程式	☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	
1 学期期末考査	3 章 2 次関数	94	2 2次方程式・2次不等式	①2次方程式の解法	2次方程式の解の公式 2次方程式の x の係数が偶数の解法	☐ ☐
		96		②2次方程式の実数解の個数	実数解、重解、判別式D Dの符号と2次方程式の実数解の個数	☐ ☐
		98		③2次関数のグラフとx軸の共有点	2次関数のグラフとx軸の共有点の x 座標 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 接する、接点	☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期期末考査	3章 2次関数	102	2 2次方程式・ 2次不等式 ハイレベル演習	④2次不等式 ⑤2次不等式の応用 大学入試問題にチャレンジ	1次関数のグラフと1次不等式 2次関数のグラフを用いた2次不等式の解 解がすべての実数であるような2次不等式 2次不等式のまとめ 連立不等式 2次不等式の応用 2次不等式の解の符号 この単元の応用力を養う	☐
		109				☐
	4章 図形と計量	118				☐
		118	1 鋭角の三角比	①直角三角形と三角比 ②正接・正弦・余弦	正接、 $\tan A$ 、仰角、俯角 正弦 $\sin A$ 、余弦 $\cos A$ 、正接 $\tan A$ 図形への応用、三角比の表 1つの三角比の値から他の三角比を求める ($90^\circ - \theta$ の三角比	☐
		124				☐
		128	2 三角比の拡張	①三角比と座標 ②三角比の性質	三角比の座標による定義、鈍角の三角比 単位円、直線の傾きと正接 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ のときの三角比の相互関係 1つの三角比の値から他の三角比を求める ($180^\circ - \theta$ の三角比 この単元の応用力を養う	☐
2学期中間考査		134				☐
		138	3 三角形への応用	①正弦定理 ②余弦定理	外接円、正弦定理 余弦定理 2辺と1角が与えられた場合 3辺が与えられた場合 三角形の辺と角の大きさ 鋭角三角形、鈍角三角形 最大角、三角形の決定 三角形の面積の公式 3辺の長さから面積を求める 円に内接する四角形の面積 この単元の応用力を養う	☐
		142				☐
		146	ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ		☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	4章 図形と計量	149	4 図形の計量	④空間図形の計量	正四面体、立方体、直方体の計量 平面図形の相似・相似比・面積比 立体の相似・相似比・表面積比・体積比	☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
2学期期末考査	3章 三角関数(数学Ⅱ)	110	1 三角関数	①一般角	弧度法 扇形の弧の長さ・面積	☐
		113		②三角関数	三角関数の定義 単位円	☐
		116		③三角関数の性質	三角関数の相互関係 $\theta + 2n\pi$ の三角関数 $\theta + \frac{\pi}{2}$ 、 $\theta + \pi$ の三角関数	☐ ☐ ☐
		120		④三角関数のグラフ	三角関数のグラフ グラフの周期性や対称性 いろいろな三角関数のグラフ	☐ ☐ ☐
		126		⑤三角関数の応用 大学入試問題にチャレンジ	三角方程式・不等式 この単元の応用力を養う	☐
		132	2 加法定理	①加法定理	加法定理の証明 15° 75° 105° 165° の値	☐
		137		②加法定理の応用	2倍角の公式 半角の公式	☐ ☐
		140		③三角関数の合成	合成の方法 関数の最大・最小	☐ ☐
		144		(発展)和と積の変換公式	公式の総合利用	☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	1章方程式・式と証明(数学Ⅱ)	6 8 12 15	1 整式の乗法・除法と分数式 ハイレベル演習	①整式の乗法と因数分解 ②二項定理 ③整式の除法 ④分数式とその計算 大学入試問題にチャレンジ	3次の乗法公式と因数分解 二項定理の理解 パスカルの三角形 除法の演算 整式と商・余りの関係 約分・通分 加法・減法・乗法・除法 この単元の応用力を養う	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		21 26 30	2 二次方程式 ハイレベル演習	①複素数と演算 ②解の公式 ③解と係数の関係 大学入試問題にチャレンジ	複素数の加法・減法・乗法・除法 解の公式 判別式 解と係数の関係 2次式の因数分解 与えられた2数を解とする2次方程式 2次方程式の実数解の符号 この単元の応用力を養う	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

ハイレベルクラスは難度の高い問題を行う。スタンダードクラスは基本問題から応用問題まで行う

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 6・7・8 組 スタンダード	教科	数学	科目	数学Ⅰ
				単位数	4
『学び』の 目標と	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学Ⅰ Advanced(東京書籍)・数学Ⅱ Advanced(東京書籍)				
副教材等	HI-PRIMEⅠ＋A、HI-PRIMEⅡ＋B(ともに東京書籍) はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ、数学Ⅱ(ともに数研出版)				

1. 学習内容

「数と式」、「集合と論証」、「2次関数」、「図形と計量」、「データの分析」の5単元を学びます。

「数と式」……整式の計算や因数分解、実数や平方根や絶対値の性質等を扱います。

「集合と論証」…集合の共通部分・和集合・空集合を学び、必要条件・十分条件や命題の逆・裏・対偶と背理法を扱います。

「2次関数」……2次関数の最大・最小、2次不等式をグラフを利用して解く方法を学んでいきます。

「図形と計量」…三角比・正弦定理等を学び、平面図形や空間図形の面積・体積の求め方を扱います。

「データの分析」…データの整理・分析を行い、活用できるようにします。

「三角関数」…三角比より一般角を定義し発展させます。(数学 II)

「方程式・式と証明」…虚数解をもつ方程式や解と係数の関係等、方程式を深く学びます。(数学 II)

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとすることが大切です。計算が苦手な人も得意な人も、まずは授業でしっかりノートをとって復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・小テスト ・朝テスト ・宿題・課題 ・ノート提出
・授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 数と式	6	1 式の計算	①整式	単項式、次数、係数	☐
					多項式、項、整式、同類項	☐
					n 次式、定数項	☐
					降べきの順、昇べきの順	☐
		8			整式の和・差、 a の累乗	☐
					指数、指数法則	☐
					単項式の積、分配法則	☐
					乗法公式(2次・3次の式の展開)	☐
					$(a \pm b)(a^2 \mp ab + b^2)$ の展開	☐
		14	2 実数	②整式の加法・減法・乗法	置き換えによる展開の工夫	☐
					因数分解、因数、共通因数でくくる	☐
					2次式の因数分解	☐
					たすきがけの因数分解	☐
					3次式の因数分解	☐
					置き換えによる因数分解の工夫	☐
					1つの文字について整理すること	☐
		22			③因数分解	☐
			3 1次不等式	①実数	自然数、正負の整数、整数	☐
					有理数、無理数、実数、既約分数	☐
					有限小数、無限小数、循環小数	☐
					数直線、絶対値とその記号	☐
					絶対値を場合分けすること	☐
					絶対値の性質	☐
		27			平方根、 $\sqrt{\quad}$	☐
					$\sqrt{a^2} = a $	☐
				②根号を含む式の計算	積と商の平方根	☐
					根号の中を簡単にすること	☐
					根号を含む式の計算	☐
					分母の有理化	☐
		34			①不等式とその性質	☐
		36			②1次不等式の解法	☐
		38			③不等式の応用	☐
					1次不等式の応用、連立不等式	☐
					絶対値記号を含む方程式・不等式	☐
						☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期 期末 考 査	2 章 集 合 ・ 論 証	50	1 集合	①集合 ②補集合とド・モルガンの法則	集合の表し方・部分集合 共通部分・和集合 空集合・補集合・全体集合 ド・モルガンの法則	☐
		56				☐
		57	2 命題と論証	①命題と条件 ②論証	命題・真偽・仮定と結論・反例 必要十分条件 命題と対偶(を利用した証明) 背理法	☐
		62				☐
	3 章 2 次 関 数	71	1 関数とグラフ	①関数 ②2次関数とそのグラフ ③2次関数の最大・最小 ④2次関数の決定	$y=f(x)$ 、 $y=f(a)$ 、関数の値 直線 $x=k$ 、直線 $y=k$ 関数の定義域・値域、最大値・最小値 2次関数、放物線、軸、頂点 下に凸、上に凸、平方完成 2次関数の平行移動させたグラフ 2次関数の最大値・最小値 定義域が与えられたときの最大値・最小値 最大・最小の応用 条件から2次関数を決定する 連立3元1次方程式	☐
		76				☐
		83				☐
		88				☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
夏期講習	5章 データの分析	158 160 162 164 166 171 172	1 データの整理と分析 2 データの相関	①データの整理 ②代表値 ③箱ひげ図 ④箱ひげ図とデータの散らばり ⑤分散と標準偏差 ①相関関係 ②相関係数	階級値・相対度数 平均値・中央値・最頻値 四分位数・ヒストグラム 範囲・四分位範囲・四分位偏差 分散・標準偏差 散布図・正の相関・負の相関 共分散・相関係数	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	3章 2次関数	94 96 98	2 2次方程式・2次不等式	①2次方程式の解法 ②2次方程式の実数解の個数 ③2次関数のグラフとx軸の共有点	2次方程式の解の公式 2次方程式の x の係数が偶数の解法 実数解、重解、判別式 D D の符号と2次方程式の実数解の個数 2次関数のグラフとx軸の共有点の x 座標 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 接する、接点	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※夏期講習・・・前期5日間(10時間)後期5日間(10時間)実施する

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	3章 2次関数	102	2 2次方程式・2次不等式	④2次不等式	1次関数のグラフと1次不等式	☐
		109		⑤2次不等式の応用	2次関数のグラフを用いた2次不等式の解 解がすべての実数であるような2次不等式 2次不等式のまとめ 連立不等式 2次不等式の応用 2次不等式の解の符号	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	4章 図形と計量	118	1 鋭角の三角比	①直角三角形と三角比	正接、 $\tan A$ 、仰角、俯角	☐
		118		②正接・正弦・余弦	正弦 $\sin A$ 、余弦 $\cos A$ 、正接 $\tan A$	☐
		124		③三角比の相互関係	図形への応用、三角比の表 1つの三角比の値から他の三角比を求める	☐ ☐
		128	2 三角比の拡張	①三角比と座標	($90^\circ - \theta$)の三角比 三角比の座標による定義、鈍角の三角比	☐ ☐
		134		②三角比の性質	単位円、直線の傾きと正接 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ のときの三角比の相互関係 1つの三角比の値から他の三角比を求める	☐ ☐ ☐
					($180^\circ - \theta$)の三角比	☐
						☐
						☐
						☐
						☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄	
2学期期末考査	4章 図形と計量	138	3 三角形への応用	①正弦定理 ②余弦定理	外接円、正弦定理	☐	
		余弦定理			☐		
		142		2辺と1角が与えられた場合 3辺が与えられた場合 三角形の辺と角の大きさ 鋭角三角形、鈍角三角形 最大角、三角形の決定	☐		
		146			③三角形の面積 三角形の面積の公式 3辺の長さから面積を求める 円に内接する四角形の面積	☐	
	149	④空間図形の計量 正四面体、立方体、直方体の計量 平面図形の相似・相似比・面積比 立体の相似・相似比・表面積比・体積比		☐			
	数学Ⅱ						
	3章 三角関数	110		1 三角関数	① 一般角	弧度法	☐
		113				扇形の弧の長さと面積	☐
		116			② 三角関数 三角関数の定義 単位円	三角関数の性質	☐
						三角関数の相互関係 の三角関数 $\theta + 2n\pi$ の三角関数 $\theta + \frac{\pi}{2}$ 、 $\theta + \pi$ の三角関数	☐
	120	④ 三角関数のグラフ 三角関数のグラフ グラフの周期性や対称性 いろいろな三角関数のグラフ		☐			
					☐		

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	3章 三角関数	126	1 三角関数	⑤ 三角関数の応用	三角方程式・不等式	☐
		132	2 加法定理	①加法定理	加法定理の証明 15°、75°、105°、165°の三角関数	☐
		137		②加法定理の応用	2倍角の公式 半角の公式	☐
		140		三角関数の合成	合成の方法 関数の最大最小	☐
	1章 方程式・式と証明	6	1 整式の乗法・除法と分数式	①整式の乗法と因数分解	3次の乗法公式と因数分解	☐
		8		②二項定理	二項定理の理解	☐
		12		③整式の除法	パスカルの三角形 除法の演算	☐
		15		④分数式とその計算	整式と商・余りの関係 約分・通分	☐
		21		①複素数と演算	加法・減法・乗法・除法	☐
		26	2 2次方程式	②解の公式	複素数の加法・減法・乗法・除法 解の公式	☐
		30		③解と係数の関係	判別式 解と係数の関係	☐
					2次式の因数分解	☐
					与えられた2数を解とする2次方程式	☐
					2次方程式の実数解の符号	☐

ハイレベルクラスは難度の高い問題を行う。スタンダードクラスは基本問題から応用問題まで行う

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 5 組 ハイレベル	教科	数学	科目	数学Ⅰ
				単位数	4
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学Ⅰ Advanced(東京書籍)・数学Ⅱ Advanced(東京書籍)				
副教材等	HI-PRIMEⅠ+A、HI-PRIMEⅡ+B(ともに東京書籍) はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ、数学Ⅱ(ともに数研出版)				

1. 学習内容

「数と式」、「集合と論証」、「2次関数」、「図形と計量」、「データの分析」の5単元を学びます。

「数と式」……整式の計算や因数分解、実数や平方根や絶対値の性質等を扱います。

「集合と論証」…集合の共通部分・和集合・空集合を学び、必要条件・十分条件や命題の逆・裏・対偶と背理法を扱います。

「2次関数」……2次関数の最大・最小、2次不等式をグラフを利用して解く方法を学んでいきます。

「図形と計量」…三角比・正弦定理等を学び、平面図形や空間図形の面積・体積の求め方を扱います。

「データの分析」…データの整理・分析を行い、活用できるようにします。

「三角関数」…三角比より一般角を定義し発展させます。(数学Ⅱ)

「方程式・式と証明」…虚数解をもつ方程式や解と係数の関係等、方程式を深く学びます。(数学Ⅱ)

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとすることが大切です。計算が苦手な人も得意な人も、まずは授業でしっかりノートをとって自宅で復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

小テスト・朝テスト・宿題・課題・授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期中間 考查	1 章 数と式	6	1 式の計算	①整式	単項式、次数、係数 多項式、項、整式、同類項 n 次式、定数項 降べきの順、昇べきの順	☐
		8		②整式の加法・減法・乗法	整式の和・差、 a の累乗 指数、指数法則 単項式の積、分配法則 乗法公式(2次・3次の式の展開) $(a \pm b)(a^2 \mp ab + b^2)$ の展開	☐
		14		③因数分解	置き換えによる展開の工夫 因数分解、因数、共通因数でくくる 2 次式の因数分解 たすきがけの因数分解 3 次式の因数分解 置き換えによる因数分解の工夫1 つの文字について整理すること	☐
		22		①実数	自然数、正負の整数、整数 有理数、無理数、実数、既約分数 有限小数、無限小数、循環小数 数直線、絶対値とその記号 絶対値を場合分けすること 絶対値の性質	☐
		27		②根号を含む式の計算	平方根、 $\sqrt{\quad}$ $\sqrt{a^2} = a $ 積と商の平方根 根号の中を簡単にすること 根号を含む式の計算 分母の有理化	☐
		34 36 38	3 1次不等式	①不等式とその性質 ②1次不等式の解法 ③不等式の応用	不等式とその性質 1次不等式とその解法 1次不等式の応用、連立不等式 絶対値記号を含む方程式・不等式	☐
				ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期 期末 考 査	2 章 集 合・ 論 証	50	1 集合	①集合	集合の表し方・部分集合	☐
		56		②補集合とド・モルガンの法則	共通部分・和集合 空集合・補集合・全体集合 ド・モルガンの法則	☐
		57	2 命題と論証	①命題と条件	命題・真偽・仮定と結論・反例 必要十分条件	☐
		62		②論証	命題と対偶(を利用した証明) 背理法	☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
	3 章 2 次 関 数	71	1 関数とグラフ	①関数	$y=f(x)$, $y=f(a)$ 、関数の値 直線 $x=k$ 、直線 $y=k$ 関数の定義域・値域、最大値・最小値	☐
		76		②2次関数とそのグラフ	2次関数、放物線、軸、頂点 下に凸、上に凸、平方完成 2次関数の平行移動させたグラフ	☐
		83		③2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値 定義域が与えられたときの最大値・最小値 最大・最小の応用	☐
		88		④2次関数の決定	条件から2次関数を決定する 連立3元1次方程式	☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
						☐
						☐
						☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
夏期講習	5章 データの分析	158 160 162 164 166 171 172	1 データの整理と分析 2 データの相関	①データの整理 ②代表値 ③箱ひげ図 ④箱ひげ図とデータの散らばり ⑤分散と標準偏差 ①相関関係 ②相関係数	階級値・相対度数 平均値・中央値・最頻値 四分位数・ヒストグラム 範囲・四分位範囲・四分位偏差 分散・標準偏差 散布図・正の相関・負の相関 共分散・相関係数	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	3章 2次関数	94 96 98	2 2次方程式・2次不等式	①2次方程式の解法 ②2次方程式の実数解の個数 ③2次関数のグラフとx軸の共有点	2次方程式の解の公式 2次方程式の x の係数が偶数の解法 実数解、重解、判別式 D D の符号と2次方程式の実数解の個数 2次関数のグラフと x 軸の共有点の x 座標 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 接する、接点	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※夏期講習・・・前期5日間(10時間)後期5日間(10時間)実施する

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	3章 2次関数	102	2 2次方程式・2次不等式 ハイレベル演習	④2次不等式 ⑤2次不等式の応用 大学入試問題にチャレンジ	1次関数のグラフと1次不等式 2次関数のグラフを用いた2次不等式の解 解がすべての実数であるような2次不等式 2次不等式のまとめ 連立不等式 2次不等式の応用 2次不等式の解の符号 この単元の応用力を養う	☐
		109				☐
						☐
	4章 図形と計量	118	1 鋭角の三角比 2 三角比の拡張	①直角三角形と三角比 ②正弦・余弦 ③三角比の相互関係 ①三角比と座標 ②三角比の性質	正接、 $\tan A$ 、仰角、俯角 正弦、 $\sin A$ 、余弦、 $\cos A$ 図形への応用、三角比の表 1つの三角比の値から他の三角比を求める ($90^\circ - \theta$ の三角比 三角比の座標による定義、鈍角の三角比 単位円、直線の傾きと正接 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ のときの三角比の相互関係 1つの三角比の値から他の三角比を求める ($180^\circ - \theta$ の三角比	☐
		118				☐
		124				☐
		128				☐
		134				☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期期末考査	4章 図形と計量	138 142	3 三角形への応用	①正弦定理 ②余弦定理	外接円、正弦定理 余弦定理 2辺と1角が与えられた場合 3辺が与えられた場合 三角形の辺と角の大きさ 鋭角三角形、鈍角三角形 最大角、三角形の決定	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		146		③三角形の面積	三角形の面積の公式 3辺の長さから面積を求める 円に内接する四角形の面積	☐ ☐ ☐
		149		④空間図形の計量	正四面体、立方体、直方体の計量 平面図形の相似・相似比・面積比 立体の相似・相似比・表面積比・体積比	☐ ☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐
	3章 三角関数	数学Ⅱ				
		110 113 116	1 三角関数	① 一般角 ② 三角関数 ③ 三角関数の性質	弧度法 扇形の弧の長さや面積 三角関数の定義 単位円 三角関数の相互関係 の三角関数 $\theta + 2n\pi$ の三角関数 $\theta + \frac{\pi}{2}$, $\theta + \pi$ の三角関数	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		120		④ 三角関数のグラフ	三角関数のグラフ グラフの周期性や対称性 いろいろな三角関数のグラフ	☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレンジ	この単元の応用力を養う	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末 考査	3章 三角関数	126	1 三角関数	⑤ 三角関数の応用	三角方程式・不等式	☐
		132	2 加法定理	①加法定理	加法定理の証明 15° , 75° , 105° , 165° の 三角関数	☐
		137		②加法定理の応用	2倍角の公式 半角の公式	☐
		140		三角関数の合成	合成の方法 関数の最大最小	☐
	1章 方程式・式と証明	6	1 整式の乗法・除法と分 数式	①整式の乗法と因数分解	3次の乗法公式と因数分解	☐
		8		②二項定理	二項定理の理解 パスカルの三角形	☐
		12		③整式の除法	除法の演算 整式と商・余りの関係	☐
		15		④分 数 式 と そ の 計 算	約分・通分 加法・減法・乗法・除法	☐
		21	2 2次方程式	①複素数と演算	複素数の加法・減法・乗法・除法	☐
		26		②解の公式	解の公式 判別式	☐
		30		③解と係数の関係	解と係数の関係 2次式の因数分解	☐
					与えられた2数を解とする2次方 程式	☐
					2次方程式の実数解の符号	☐
						☐
						☐
						☐
						☐
						☐
						☐
						☐
						☐
						☐
			ハイレベル演習	大学入試問題にチャレン ジ	この単元の応用力を養う	☐

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年2・3・4組 スタンダード	教科	数学	科目	数学 A
				単位数	2
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学 A Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi-PRIME 数学 I +A(東京書籍) はぎ取り式練習ドリル数学A(数研出版) はぎ取り式練習ドリル数学 I (数研出版)				

1. 学習内容

場合の数と確率・整数の性質、の2単元を学びます。(図形の性質は履修済み)

「集合」……集合についての基本事項および有限集合の要素の個数を扱います。

「場合の数」…和の法則・積の法則から様々な順列・組合せの問題等を取り上げていきます。

「確率」……独立な試行や反復試行における確率や条件付き確率を扱います。

「整数の性質」…約数・倍数、最大公約数・最小公倍数、ユークリッドの互除法、2元1次不定方程式などを学びます。

「データの分析」…データの整理・分析を行い、活用できるようにします。(数学 I)

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとやるのが大切です。計算が苦手な人は、授業でしっかりノートをとって自宅で復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・ 小テスト ・ 宿題・課題 ・ ノート提出 ・ 朝テスト
- ・ 授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 場合の数と確率	8	1 場合の数	① 集合の要素の個数 ② 樹形図と場合の数 ③ 順列 ④ 組合せ	有限集合・無限集合 和集合・補集合の要素の個数	☐ ☐
		12			樹形図・和の法則・積の法則	☐
		16			階乗・順列・円順列・重複順列 ${}_nP_r$ の計算に習熟する	☐ ☐
		22			組合せ・組分け ${}_nC_r$ の計算に習熟する 同じものを含む順列	☐ ☐ ☐
1学期期末考査	1章 場合の数と確率	32	1 事象と確率	① 事象と確率	試行・事象 全事象・根元事象・空事象 同様に確からしい	☐ ☐ ☐
		36	2 確率とその基本性質	② 確率の基本性質	事象の確率 和事象・積事象 排反・確率の基本性質 排反事象の加法定理 一般の加法定理	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		43	3 いろいろな確率	① 独立な試行の確率	余事象 余事象の確率 独立な試行の確率	☐ ☐ ☐
		47		② 反復試行の確率	3つの独立な試行の確率 反復試行・反復試行の確率	☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	1章 確率	51	3 いろいろな確率	③ 条件付き確率	条件付き確率 乗法定理 事後の確率	☐ ☐ ☐
	2章 整数の性質	60	1 約数と倍数	①約数と倍数	いろいろな数の倍数 素因数分解と約数 約数の利用	☐ ☐ ☐
		65		②最大公倍数と最小公約数	最大公倍数と最小公約数	☐
		71	2 ユークリッドの互除法と不定方程式	①除法の性質と整数の分類	除法の性質、整数の分類	☐
		76		② ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法	☐
2学期期末考査	2章 整数の性質	79	3 整数の性質の活用	③ 2元 1 次不定方程式	2元 1 次不定方程式の整数解 1組の整数解をユークリッドの互除法を用いて求める。 すべての整数解を求める	☐ ☐ ☐
		84		①記数法	2進法と10進法 2進数の計算 n 進法	☐ ☐ ☐
		89		②小数と分数	既約分数 $\longleftrightarrow$ 有限小数 循環小数	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	5章 データの分析(数学Ⅰ)		1 データの整理と分析	基礎力強化の総復習	問題集を利用して演習を行う	☐
			2 データの相関	基礎力強化の総復習	問題集を利用して演習を行う	☐
	数学A演習		1 場合の数と確率	基礎力強化の総復習	問題集を利用して演習を行う	☐
			2 整数の性質	基礎力強化の総復習	問題集を利用して演習を行う	☐
			3 図形の性質	基礎力強化の総復習	問題集を利用して演習を行う	☐

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年1組 ハイレベル	教科	数学	科目	数学 A
				単位数	2
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学 A Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi-PRIME 数学 I + A(東京書籍) はぎ取り式練習ドリル 数学A(数研出版)				

1. 学習内容

場合の数と確率・整数の性質、の2単元を学びます。(図形の性質は履修済み)

「集合」……集合についての基本事項および有限集合の要素の個数を扱います。

「場合の数」…和の法則・積の法則から様々な順列・組合せの問題等を取り上げていきます。

「確率」……独立な試行や反復試行における確率や条件付き確率を扱います。

「整数の性質」…約数・倍数、最大公約数・最小公倍数、ユークリッドの互除法、2元1次不定方程式などを学びます。

「データの分析」…データの整理・分析を行い、活用できるようにします。(数学 I)

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとやるのが大切です。計算が苦手な人は、授業でしっかりノートをとって自宅で復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・ 小テスト
- ・ 宿題・課題
- ・ ノート提出
- ・ 朝テスト
- ・ 授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 場合の数と確率	8	1 場合の数	① 集合の要素の個数	有限集合・無限集合 和集合・補集合の要素の個数	☐
		12		② 樹形図と場合の数	樹形図・和の法則・積の法則	☐
		16		③ 順列	階乗・順列・円順列・重複順列 ${}_nP_r$ の計算に習熟する	☐
		22		④ 組合せ	組合せ・組分け ${}_nC_r$ の計算に習熟する 同じものを含む順列	☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	☐
1学期期末考査	1章 場合の数と確率	32	1 事象と確率	① 事象と確率	試行・事象 全事象・根元事象・空事象 同様に確からしい	☐
		36	2 確率と基本性質	② 確率の基本性質	事象の確率 和事象・積事象 排反・確率の基本性質 排反事象の加法定理 一般の加法定理	☐
		43	3 いろいろな確率	① 独立な試行の確率	余事象の確率 独立な試行の確率	☐
		47		② 反復試行の確率	3つの独立な試行の確率 反復試行・反復試行の確率	☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	1章 確率	51	3 いろいろな確率	③条件付き確率	条件付き確率 乗法定理 事後の確率	☐ ☐ ☐
	2章 整数の性質	60	1 約数と倍数	①約数と倍数	いろいろな数の倍数 素因数分解と約数 約数の利用	☐ ☐ ☐
		65		②最大公倍数と最小公約数	最大公倍数と最小公約数	☐
		71	2 ユークリッドの互除法と不定方程式	①除法の性質と整数の分類	除法の性質、整数の分類	☐
		76		④ ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法	☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	
2学期期末考査	2章 整数の性質	79	3 整数の性質の活用	⑤ 2元1次不定方程式	2元1次不定方程式の整数解 1組の整数解をユークリッドの互除法を用いて求める。 すべての整数解を求める	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		84		①記数法	2進法と10進法 2進数の計算 n 進法	☐ ☐ ☐ ☐
		89		②小数と分数	既約分数 $\longleftrightarrow$ 有限小数 循環小数	☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	5章 データの分析(数学Ⅰ)		1 データの整理と分析	ハイレベル演習	問題集を利用して演習を行う	☐
			2 データの相関	ハイレベル演習	問題集を利用して演習を行う	☐
	数学A演習		1 場合の数と確率	ハイレベル演習	問題集を利用して演習を行う	☐
			2 整数の性質	ハイレベル演習	問題集を利用して演習を行う	☐
			3 図形の性質	ハイレベル演習	問題集を利用して演習を行う	☐

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年 6・7・8 組 スタンダード	教科	数学	科目	数学 A
				単位数	2
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学 A Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi-PRIME(東京書籍) はぎ取り式練習ドリル 数学A(数研出版)				

1. 学習内容

場合の数と確率、整数の性質、図形の性質(平面図形)の3単元を学びます。
「集合」……集合についての基本事項および有限集合の要素の個数を扱います。
「場合の数」…和の法則・積の法則から様々な順列・組合せの問題等を取り上げていきます。
「確率」……独立な試行や反復試行における確率や期待値について扱います。
「整数の性質」…約数・倍数、最大公約数・最小公倍数、ユークリッドの互除法などを学びます。
「図形の性質」…チェバ・メネラウスの定理や方べきの定理・共通接線等の図形に関する性質を学びます。

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとすることが大切です。計算が苦手な人は、授業でしっかりノートをとって自宅で復習しましょう。

すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。

苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

小テスト ・ 朝テスト ・ 宿題・課題 ・ ノート提出
授業を受ける姿勢 ・ 自主レポート

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 場合の数と確率	8	1 場合の数	① 集合の要素の個数	有限集合・無限集合 和集合・補集合の要素の個数	☐ ☐
		12		② 樹形図と場合の数	樹形図・和の法則・積の法則	☐
		16		③ 順列	順列階乗・円順列・重複順列	☐
		22		④ 組合せ	組合せ・組分け 同じものを含む順列	☐ ☐
1学期期末試験	1章 場合の数と確率	32	2 確率とその基本性質	① 事象と確率	試行と事象 全事象・根元事象・空事象 同様に確からしい 事象の確率	☐ ☐ ☐ ☐
		36		② 確率の基本性質	積事象・和事象 排反事象 確率の基本性質 確率の加法定理 和事象の確率 余事象とその確率	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		43	3 いろいろな確率	① 独立な試行の確率	独立な試行の確率 3つの独立な試行の確率	☐ ☐
		47		③ 反復試行の確率	反復試行・反復試行の確率	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	1章 確率	51	3 いろいろな確率	③条件付き確率	条件付き確率 確率の乗法定理 事後の確率	☐ ☐ ☐
	2章 整数の性質	60	1 約数と倍数	① 約数と倍数	いろいろな数の倍数 素因数分解と 約数の個数と総和 約数の利用	☐ ☐ ☐ ☐
		65		② 最大公倍数と最小公約数	公約数と最大公約数 公倍数と最小公倍数 最大公倍数と最小公約数	☐ ☐
		71	2 ユークリッドの互除法と不定方程式	①除法の性質と整数の分類	除法の性質、整数の分類 連続する整数の積	☐ ☐
		76		②ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法	☐
		79		③2元1次不定方程式	1次不定方程式の解法 1次不定方程式とユークリッドの互除法	☐ ☐
	2章 整数の性質	84	3 整数の性質の活用	①記数法	2進法と10進法 2進数の計算 n 進法	☐ ☐ ☐
		89		②小数と分数	有限小数となる分数 循環小数 となる分数	☐ ☐
	3章 図形の性質	100	1三角形の性質	①三角形と比	三角形と比 中点連結定理 内分・外分 内角の二等分線と比 外角の二等分線と比 角の二等分線と比の定理の逆	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		104		②三角形の重心・外心・垂心・内心	重心・外心・垂心・内心(傍心) 外接円・内接円	☐ ☐
		109		③三角形の比の定理	チェバの定理とその逆 メネラウスの定理	☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	3章 図形の性質	115	2 円の性質	①円周角の定理	円の基本性質 円周角の定理とその逆 直径と円周角	☐ ☐ ☐
		116		②円に内接する四角形	内接、円に内接する四角形 四角形が円に内接する条件	☐ ☐
		119		③接線と弦のつくる角	接弦定理	☐
		121		④方べきの定理	方べきの定理とその逆	☐
		124		⑤2つの円	外接する・内接する・共通接線共 通内接線・共通外接線	☐ ☐
		127	3 作図	①基本的な作図	垂直二等分線の作図 角の二等分線の作図	☐ ☐
		130		②長さの作図	積・商の長さの作図 平方根の長さの作図	☐ ☐
		134	4 空間図形	①直線と平面	2直線の位置関係 平面の決定条件 2平面の位置関係 2平面のなす角 直線と平面の位置関係 三垂線の定理	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		140		②多面体	正多面体 オイラーの多面体定理	☐ ☐

2020 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1年 5組 ハイレベル	教科	数学	科目	数学 A
				単位数	2
『学び』の 目標とねらい	高校数学の基礎となる知識を身につけ、計算力と論理的思考力を養う。				
教材	数学 A Advanced(東京書籍)				
副教材等	Hi-PRIME(東京書籍) はぎ取り式練習ドリル 数学A(数研出版)				

1. 学習内容

場合の数と確率、整数の性質、図形の性質(平面図形)の3単元を学びます。 「集合」……集合についての基本事項および有限集合の要素の個数を扱います。 「場合の数」…和の法則・積の法則から様々な順列・組合せの問題等を取り上げていきます。 「確率」……独立な試行や反復試行における確率や期待値について扱います。 「整数の性質」…約数・倍数、最大公約数・最小公倍数、ユークリッドの互除法などを学びます。 「図形の性質」…チェバ・メネラウスの定理や方べきの定理・共通接線等の図形に関する性質を学びます。

2. アドバイス

予習・復習をしっかりとすることが大切です。計算が苦手な人は、授業でしっかりノートをとって自宅で復習しましょう。 すでに授業で学習した内容を理解していることが前提で授業が進みます。よって、わからないところがあれば、その日のうちに質問して、納得がいくまで考えるといった努力が必要です。 苦手な人は、まず小テストや課題提出をコツコツやってくることから始めてみましょう。
--

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

小テスト	・	朝テスト	・	宿題・課題	・	ノート提出
授業を受ける姿勢	・	自主レポート				

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 場合の数と確率	8	1 場合の数	① 集合の要素の個数	有限集合・無限集合 和集合・補集合の要素の個数	☐
		12		② 樹形図と場合の数	樹形図・和の法則・積の法則	☐
		16		③ 順列	順列・階乗・円順列・重複順列	☐
		22		④ 組合せ	組合せ・組分け 同じものを含む順列	☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	☐
1学期期末試験	1章 場合の数と確率	32	2 確率とその基本性質	① 事象と確率	試行と事象 全事象・根元事象・空事象 同様に確からしい 事象の確率	☐
		36		② 確率の基本性質	積事象・和事象 排反事象 確率の基本性質 確率の加法定理 和事象の確率 余事象とその確率	☐
		43	3 いろいろな確率	① 独立な試行の確率	独立な試行の確率 3つの独立な試行の確率	☐
		47		② 反復試行の確率	反復試行・反復試行の確率	☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	☐
時期	テーマ		単元名	学習内容	到達度目標	確認欄

2学期中間考査	1章 確率	51	3 いろいろな確率	③条件付き確率	条件付き確率 確率の乗法定理 事後の確率	☐ ☐ ☐
	2章 整数の性質	60	1 約数と倍数	① 約数と倍数	いろいろな数の倍数 素因数分解と 約数の個数と総和 約数の利用	☐ ☐ ☐ ☐
		65	2 ユークリッドの互除法 と不定方程式	② 最大公倍数と最小公 約数	公約数と最大公約数 公倍数と最小公倍数 最大公倍数と最小公約数	☐ ☐ ☐
				①除法の性質と整数の分 類	除法の性質、整数の分類 連続する整数の積	☐ ☐
				②ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法	☐
				③2元1次不定方程式	1次不定方程式の解法 1次不定方程式とユークリッドの 互除法	
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	
2学期 期末考査	2章 整数の性質	84	3 整数の性質の活用	①記数法	2進法と10進法 2進数の計算 n 進法	☐ ☐ ☐
		89		②小数と分数	有限小数となる分数 循環小数 となる分数	☐
	3章 図形の性質	100	1 三角形の性質	①三角形と比	三角形と比 中点連結定理 内分・外分 内角の二等分線と比 外角の二等分線と比 角の二等分線と比の定理の逆	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		104		②三角形の重心・外心・垂 心・内心	重心・外心・垂心・内心(傍心)外 接円・内接円	☐ ☐
		109		③三 角 形 の 比 の 定 理	チェバの定理とその逆 メネラウスの定理	☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	

時期	テーマ		単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
学年末考査	3章 図形の性質	115	2 円の性質	①円周角の定理	円の基本性質 円周角の定理とその逆 直径と円周角	☐ ☐ ☐
		116		②円に内接する四角形	内接、円に内接する四角形 四角形が円に内接する条件	☐ ☐
		119		③接線と弦のつくる角	接弦定理	☐
		121		④方べきの定理	方べきの定理とその逆	☐
		124		⑤2つの円	外接する・内接する・共通接線共 通内接線・共通外接線	☐ ☐
		127	3 作図	①基本的な作図	垂直二等分線の作図 角の二等分線の作図	☐ ☐
		130		②長さの作図	積・商の長さの作図 平方根の長さの作図	☐ ☐
		134	4 空間図形	①直線と平面	2直線の位置関係 平面の決定条件 2平面の位置関係 2平面のなす角 直線と平面の位置関係 三垂線の定理	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		140		②多面体	正多面体 オイラーの多面体定理	☐ ☐
			ハイレベル演習	大学入試に挑戦	この単元の応用力をつける	

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	理科	科目	物理基礎
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	ボールや乗り物の運動などの日常における物理現象と結びつけながら授業内容を理解する。				
教材	『高校物理基礎』 実教出版				
副教材等	【必携】『リピート&チャージ物理基礎ドリル』 3冊 運動と力、 仕事とエネルギー／熱、 波・電気 実教出版				

1. 学習内容

物理的な事物・事象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高めることを目標とする。

第 1 章 物体の運動 においては速さと速度の定義を理解するとともに、物理で使う単位等を学び、速度・加速度、力、運動の法則を学ぶ。

第 2 章 エネルギー では力学的エネルギー、熱の扱い方と、熱とエネルギーの変換を中心に学ぶ。

第 3 章 波 では波の性質・音と音波等を学ぶ。

第 4 章 電気 では基本的な事柄である電気現象を学ぶ。

第 5 編 人間と物理 ではエネルギーと物理学が未来に向けて貢献するための基礎的事項を学ぶ。

ハイレベルとスタンダードで扱う内容は変わらないが、試験の難易度は多少の差がある。

2. アドバイス

我々の身の回りには多種多様の自然現象があります。その法則を理解するのが物理です。重要な法則を理解するためにも問題演習を数多く解き、考え方を深めることを望みます。そのためには副教材での問題集を復習し、前回の授業をより身につけられるよう努力を望みます。また、授業内容を自分なりにまとめてみるのも非常に効果が高いです。少し時間が掛かりますが、是非復習にしっかり取り組んで欲しいと思います。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(小テスト・課題・出席)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	1章 物体の運動 1節 運動の表し方	8-15	速度	速さと等速直線運動 時速と秒速 等速直線運動のグラフ 変位 平均の速さと瞬間の速さ 速度の合成、相対速度	物理学の手法、測定を理解する 運動を観測しデータの整理をする 等速直線運動 $V=x/t$ を理解する 等速直線運動のグラフについて理解し、自ら作成することができる 平均/瞬間の速さの違いを理解する 相対速度が求められる	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		16-19	加速度	加速度とは 等加速度直線運動 等加速度運動のグラフ	加速度とは何かを理解し求められる 等加速度直線運動の式を理解し、実践的にあてはめることができる	☐ ☐ ☐
		20-27	落体の運動	自由落下 鉛直投射 水平投射 斜方投射	重力加速度を用いた運動を解析する 自由落下運動、鉛直投射、水平投射、斜方投射の運動を理解する	☐ ☐
1学期期末考査	1章 物体の運動 2節 力	28-29	力とそのはたらき	力 いろいろな力	力とはなにかを理解する 力を矢印で的確に表すことができる	☐ ☐
		30-31	力の合成	力の合成・分解	力の合成・力の分解・2力のつり合い	☐
		32-33	力のつりあい	力のつりあい 作用と反作用	について表すことができる 作用反作用の法則・2力のつりあいと作用反作用の違いがわかる	☐
		36-37	摩擦を受ける運動	静止摩擦力 動摩擦力	静止/動摩擦力について理解する	☐
		38-43	圧力と浮力	圧力 浮力 空気の抵抗	圧力、気圧、水圧について理解し、浮力を用いて運動を解析できる 空気抵抗を受けて落下する物体の運動について解析できる	☐ ☐
	3節 運動の法則	44-59	運動の法則	慣性の法則 運動の法則 運動方程式 重さと重量	慣性の法則を視覚的に捉える 運動の法則を理解し、運動と力の関係について正しく理解する 運動方程式を立て、物体にはたらく力よりその物体の運動を解析することができる	☐ ☐ ☐
夏休み			課題: 1学期の復習プリント 夏期講習: なし			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	2章 エネルギー 1節 仕事とエネルギー	68-71	仕事	仕事 仕事の原理、仕事率	仕事の定義を理解する 仕事の原理とはなにかわかる	☐
		72-73	運動エネルギー	運動エネルギー	運動エネルギーを理解し式を立てることができる	☐
		74-75	位置エネルギー	位置エネルギー(重力、弾性力)	重力による位置エネルギーと弾性力による位置エネルギーを理解し、式を立てられる	☐
		76-81	力学的エネルギー保存	力学的エネルギー保存則	ブランコ・振り子等の運動を力学的エネルギーを用いて解析する	☐
2学期期末考査	2章 エネルギー 2節 熱とエネルギー 4章 1節 電流の流れ方 2節 電気の利用	82-85	熱と熱量	温度、熱量、熱容量、比熱、熱量の保存	温度について意味を理解する 熱量の保存について理解する	☐
		86-87	熱と物質の状態	物質の三態 熱膨張	融解熱や蒸発熱の潜熱が状態変化に必要であるとわかる	☐
		88-89	熱と仕事	熱と仕事、内部エネルギー、熱力学第一法則	内部エネルギー、仕事、熱量から熱力学第一法則を理解する	☐
		96-97	熱と仕事の変換	熱効率	熱機関・熱効率についてわかる	☐
		130-131	電気の性質	静電気 物体が帯電するしくみ	静電気の存在、帯電のしくみについて視覚的に捉える	☐
		132-137	電流と電気抵抗	電流 オームの法則 抵抗率 抵抗の接続	電流・電圧・抵抗の関係であるオームの法則を理解する 金属による抵抗率の違いを理解し、どのような物理量に抵抗値が起因するか理解する	☐
		138-141	電気とエネルギー	ジュール熱 電力量と電力	抵抗で発生するジュール熱が電気のエネルギーによるもので、エネルギー保存則によって関係式を導ける	☐
		142-143	磁場	電流がつくる磁場	電流と磁場の関係を知る	☐
		144-147	発電	電磁誘導、変圧、送電	電磁誘導を学ぶことにより発電のしくみを知る	☐
		148-149	交流	交流の性質		
		140-141	電磁波	電磁波の性質 電磁波の種類	電磁波の種類、特徴を理解する 電波の発生、伝わり方を理解し、その実用例を学ぶ	☐

冬休み			課題:3学期の予習プリント 冬期講習: なし	
-----	--	--	---------------------------	--

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	3章 波	100-105	波と媒質の運動	波動、波の発生、波の表し方、横波と縦波	波動・振動と波・振動を表す量を学ぶ 波の基本式を理解する	☐
	1節 波の性質	106-111	重ねあわせの原理	重ねあわせの原理	横波と縦波を視覚的に理解する	☐
					2つの波を重ねることによって視覚的に波の重ね合わせの原理を理解する	☐
		112-115	波の反射	定常波 自由端反射 固定端反射	定常波を視覚的に捉え作図できる	☐
					自由端反射・固定端反射を視覚的に理解しグラフを作図できる	☐
	2節 音と振動	112-115	音の性質	音波 音の速さ 音の大きさ、高さ、音色 うなり	音波・音の3要素について、波の性質をもとに理解する	☐
					音さを用いて共鳴、うなりを体感するとともに理解する	☐
		116-121	弦と気柱の振動と共振・共鳴	弦の振動 気柱の振動 共振、共鳴	弦の振動について視覚的に捉え、どのような波形になるかわかる	☐
					開管と閉管について定常波を作図し、管楽器の仕組みを理解する	☐
	5章 人間と物理	160-167	エネルギーの移り変わり	いろいろなエネルギー エネルギーの変換と保存・エネルギー資源・化学燃料・原子力・太陽光・その他のエネルギー資源	エネルギーの変換をエネルギー保存則とともに理解する	☐
		168-171	エネルギー資源と発電		火力、水力、原子力発電のしくみを理解し資源の問題を考える 原子と原子核について学び、放射線の発生やその影響について理解する	☐

春休み			課題:特になし 春期講習: なし	
-----	--	--	---------------------	--

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	理科	科目	化学基礎
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	身の回りのものすべてが原子で構成されていることを理解する。				
教材	『新版化学基礎』 実教出版				
副教材等	【必携】『アクセスノート 化学基礎』 実教出版 【あると便利なもの】特に指定はしない。				

1. 学習内容

人類は古来より地球上にある様々な物質を研究し、現在では自然界にはない物質もつくり出すことができるようになってきました。化学とは、その物質の成り立ちについて学ぶ学問です。

化学基礎は、元素を知り、物質の根源である原子の構造を学ぶところからスタートします。1学期は物質の構成粒子や結合を土台に、物質の性質や特徴を学びます。元素記号や様々な物質の化学式など暗記しなければならないこともたくさんありますが、ルールやその背景を学ぶことで暗記もぐっと楽になります。2学期は、物質をつくる粒子数に着目した物質量(単位:モル)という概念を学びます。反応する物質の量的関係を考えるなど、物質量の概念を応用できるようになることも大きな目標です。これらを土台に、2学期後半から3学期にかけて、溶液の性質や化学変化などを学んでいきます。ハイレベルクラスは発展学習や入試問題演習にも取り組みますが、進度自体はスタンダードクラスと同じです。

なお、学習指導計画に記載されている●◆は、ハイレベルクラスのための学習項目です。

2. アドバイス

- ・授業に集中して参加すること。
- ・きちんと板書し、後に自分が利用できるノートをつくること。
- ・口頭でなされた説明もノートにメモする習慣をつけること。
- ・暗記すべき事がらをしっかり暗記すること。
- ・問題を解くときは、図表にあらわして理解する習慣をつけること。
- ・出される課題、指示された小テストにしっかり取り組むこと。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査

平常点(小テスト・課題・ノート提出・出席)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	物質の構成・物質の構成粒子	14-17	物質の種類と性質	純物質と混合物 混合物の分離・精製	・混合物と純物質の違いが理解できる。 ・さまざまな分離法を理解することができる。 ・蒸留の方法を図示することができる。	☐ ☐ ☐
		18-21	物質と元素	同素体	・すべての同素体およびその性質を理解することができる。	☐
		22-25	物質の三態と熱運動	物質の三態	・物理変化のしくみを理解することができる。 ・絶対温度の計算ができる。	☐ ☐
		26-32	原子の構造	原子の構造 同位体 電子配置	・原子の構造(陽子・中性子・電子)を理解することができる。 ・同位体について理解することができる。 ・原子番号 20 までの元素周期表を書くことができる。 ・原子番号 20 までの電子配置を示すことができる。 ・価電子の数と周期表の関係を理解することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		33-35	イオン	イオンとイオンの生成	・イオンの生成を電子配置から理解することができる。 ・おもな単原子イオン・多原子イオンを書くことができる。 ・イオン化 En・電子親和力について理解することができる。	☐ ☐ ☐
		36-38	周期表	元素の周期律と周期表	・原子番号 36 までの元素周期表を書くことができる。 ・典型・遷移元素、金属・非金属元素の分類ができる。	☐ ☐
1学期期末考査	粒子の結合	46-49	イオン結合とイオンからなる物質	イオン結合とイオン結晶	・イオン結合のしくみを理解することができる。 ・組成式をつくることができる。	☐ ☐
		50-58	共有結合と分子間力	分子 電子式・構造式 配位結合 電気陰性度と極性 分子間にはたらく力	・共有結合のしくみを理解することができる。 ・分子を電子式や構造式で表すことができる。 ・分子の形を表現することができる。 ・配位結合のしくみを理解することができる。 ・電気陰性度や極性から水素結合を理解することができる。 ・分子間力について理解することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
		59-61	共有結合と物質	分子からなる物質・共有結合の結晶	・分子結晶や共有結合結晶のしくみを理解することができる。	☐
		62-63	金属結合と金属	金属結合と金属の性質	・金属結合や金属結晶のしくみを理解することができる。	☐
夏休み			各自で復習を行う 重点項目： 原子の構造・電子配置・周期表・イオン結合・共有結合			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
2学期中間考査	物質量と化学反応式	80-84	原子量・分子量・式量	相対質量 原子量 分子量・式量	・ ^{12}C を基準とした相対質量を理解することができる。 ・同位体の存在比から原子量を求められる。 ・原子量から、分子量、式量を求められる	☐ ☐ ☐
		84-94	物質量	物質量とアボガドロ数 物質量と質量 物質量と気体の体積 物質量の計算 溶液の濃度	・物質1mol は 6.0×10^{23} 個であることを理解することができる。 ・物質1mol は分子量gであることを理解することができる。 ・気体1mol は 22.4Lであることを理解することができる。 ・物質量をテーマとした計算問題を解くことができる。 ・質量パーセント濃度の意味を理解することができる。 ・モル濃度の意味を理解することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	物質量と化学反応式・酸と塩基の反応	98-105	化学反応式と物質量	化学反応式 化学変化の量的関係	・化学反応式をつくる時の決まりを理解することができる。 ・化学反応式の係数を決定することができる。 ・係数と物質量の比が等しいことを理解することができる。 ・量的関係をテーマとした計算問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐
		108-112	酸・塩基	酸・塩基の定義 酸・塩基の価数・強弱	・酸・塩基の定義を理解することができる。 ・酸・塩基を強弱ごとに分類することができる。	☐ ☐
		113-117	水の電離と水溶液の pH	水素イオン濃度と pH	・pH の意味を理解し、その値を求めることができる。 ・指示薬の変色域を述べることができる。 ◆log を用いて pH の値を求めることができる。	☐ ☐ ☐
冬休み			各自で復習を行う 重点項目： 物質量の計算・化学反応式の量的関係・酸と塩基			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
3学期学年末考査	酸と塩基の反応・酸化還元反応	120-124	中和反応	中和反応 中和滴定 滴定曲線	・中和のしくみを理解することができる。 ・中和滴定の器具の使用方法を理解することができる。 ・中和の公式を理解し、計算することができる。 ・反応する酸と塩基の種類から滴定曲線が判断できる。 ・塩の種類について理解することができる。	☐ ☐ ☐ ☐
		125-127	塩	塩の分類と水溶液	・塩の化学式から、もとになった酸・塩基の化学式がわかる。 ・塩の化学式から塩の水溶液の性質がわかる。	☐ ☐ ☐
		128-132	酸化と還元	酸化還元の定義	・酸素・水素の授受で酸化還元を説明することができる。 ・電子の授受で酸化還元を説明することができる。 ・酸化と還元は同時に起こっていることが分かる ・反応式から、酸化・還元された物質を判別できる。	☐ ☐ ☐ ☐
		134-138	酸化剤と還元剤	酸化剤・還元剤	・化合物・イオンの中にある各原子の酸化数を求められる。 ・酸化数の増減で反応式中の酸化還元を判別できる。 ・反応式中の酸化剤・還元剤を判別できる。 ・代表的な酸化還元反応式が書ける。	☐ ☐ ☐ ☐
		140-143	金属の酸化還元反応	酸化還元反応の量的関係 金属のイオン化傾向	・酸化還元反応の量的関係がわかる。 ・金属のイオン化列をおぼえることができる。 ・イオン化列と金属の反応性の関係を理解することができる。	☐ ☐ ☐
		144-152	酸化還元反応の利用	電池 ●電気分解	・ダニエル電池のしくみを理解することができる。 ・鉛蓄電池のしくみを理解することができる。 ◆電気分解により、陰極・陽極で生成する物質がわかる。 ◆ファラデーの法則による問題を解くことができる。	☐ ☐ ☐ ☐
春休み			各自で復習を行う 重点項目： 中和滴定・酸化数・酸化還元反応・金属のイオン化傾向・電池・電気分解			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	理科	科目	生物基礎
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	学んだことが実生活に生かされていることを理解できる。				
教材	『生物基礎』東京書籍				
副教材等	【必携】『改訂版 フォトサイエンス生物図録』(タブレット版)数研出版 『改訂版 スタディアップノート生物基礎』数研出版 問題演習用のノート 1 冊				

1. 学習内容

1 年次の生物基礎(必修)、2 年次の生物(選択)、および 3 年次の生物演習(選択)を学習すれば、理系の生物受験に対応できるように計画しています。また、文系でも国公立大学を志望する生徒は大学入学共通テストで必要となります。

生物基礎では、みなさんがこれから生きていく上で身につけるべき生物学的知識を扱います。地球上の生物にはさまざまな動物、植物があり多様ですが、すべての生物には共通するしくみがあります。例えば、細胞でできていること、DNAをもつこと、エネルギーを利用すること、自分と同じような子孫をつくること、体内の状態を一定に保つことです。これらの生物の共通性について 1、2 学期に学習します。そして、生物の多様性について 3 学期に学習します。また、所々で 2 年生の内容に踏み込んで学習し、理解を深めます。適宜、プリントや資料集等で補っていきます。

2. アドバイス

生物は暗記科目ととらえがちですが、一問一答の丸暗記では大学入試には対応できません。授業中の問題演習や授業後の宿題を中心に、自分で調べたり、考えたりしながら学習をすすめましょう。

授業で使用する問題集には、基本的な問題がのっています。この問題集を完璧にできるようにしなければ、高校 2 年生の生物の授業をはじめ、大学受験も難しいでしょう。初めは授業プリントを見ながら解き、2 回目、3 回目と何度か解きなおして、定期考査までには完全に自力で解けるようにしましょう。また、授業中に小テストを行い、確認や復習を行っていきます。高校 2 年生で演習ができるように、前向きに取り組みましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(小テスト・課題・実験)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	生物の特徴	8-50	生物の多様性と共通性	生物の特徴 細胞の多様性 細胞の構造	生物の共通性と多様性 単細胞生物と多細胞生物 細胞小器官の名称、形、はたらき 動物細胞と植物細胞の違い 真核細胞と原核細胞の違い 共生説 細胞の大きさ 顕微鏡の使い方 マイクロメーターを使った実験	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
			生命活動とエネルギー	エネルギーと代謝 生体内におけるエネルギー変換 代謝にかかわる酵素	生体を構成する物質 同化と異化(光合成と呼吸) ATPの構造とはたらき 酵素のはたらき	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査	遺伝子とそのはたらき	51-94	生物と遺伝子	DNAの構造 遺伝子研究の歴史	ヌクレオチド、DNAの構造 DNAの抽出実験 肺炎双球菌の形質転換 バクテリオファージの実験	☐ ☐ ☐ ☐
			遺伝情報とタンパク質の合成 遺伝情報の分配	RNAの構造と種類 タンパク質合成 染色体とゲノム 細胞の分化 細胞周期 DNAの複製 体細胞分裂	DNAとRNAの違い タンパク質合成の過程 染色体の構造、ゲノム、遺伝子 分化、パフ 細胞周期 半保存的複製 体細胞分裂のしくみ 固定、解離、染色	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
夏休み			課題: 1学期の復習			

2学期中間考査	生物の体内環境の維持	95-115	体内環境	恒常性 体液の種類 血液の成分とはたらき 体液の循環 肝臓のはたらき 体液の濃度調節	体外環境と体内環境 血液、組織液、リンパ液 血球、血しょうのはたらき 体循環と肺循環、閉鎖血管系 酸素解離曲線 血液凝固のしくみ 肝臓の構造とはたらき 腎臓の構造、ろ過と再吸収 濃縮率の計算 魚類の体液の濃度調節	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2学期期末考査	生物の体内環境	116-170	体内環境の調節 免疫	自律神経系による調節 内分泌系による調節 自律神経系とホルモンによる協同作業 免疫とは 自然免疫 獲得免疫 免疫とヒト	交感神経と副交感神経 ホルモンの種類とはたらき フィードバック調節 血糖量の調節 体温の調節 物理的防御、化学的防御 食作用 体液性免疫と細胞性免疫 二次応答 血液の凝集反応 予防接種、血清療法 アレルギー、エイズ、がん	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
冬休み			課題:これまでの復習			☐

3学期学年末考査	生物の多様性と生態系	171-234	植生の多様性と分布 気候とバイオーム	植生の種類 世界のバイオーム 日本のバイオーム	植生の分類 森林の階層構造 気温・降水量とバイオームの種類 水平分布と垂直分布 光の強さと光合成の関係 陽生植物と陰生植物 一次遷移と二次遷移 乾性遷移と湿性遷移 ギャップ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
			植生の遷移 生態系とその保全	植生の遷移 生態系の成り立ち 物質循環とエネルギーの流れ 生態系のバランス 生物多様性の保全	作用と環境形成作用 食物連鎖と食物網 炭素の循環と窒素の循環 エネルギーの流れ 復元力、キーストーン種 地球温暖化、オゾン層の破壊 富栄養化、生物濃縮 里山、干潟 外来生物	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	
春休み			課題:これまでの復習				

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	芸術	科目	音楽 I (選択)
				単位数	2
「学び」の目標とねらい	様々な音楽に触れ、基礎的な表現の技術を身につける				
教材	高校生の音楽 1 (教育芸術社)				
副教材等	リコーダー (アルトまたはソプラノ…小・中学生のときに使っていたもの)				

1. 学習内容

○ 表現

- (1) 歌唱…合唱曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲を中心に、表現を工夫して歌う
- (2) 器楽…アンサンブルを中心に、表現を工夫して演奏する
- (3) 創作…音楽を形づくっている要素を感受し、音楽をつくる

○ 鑑賞

- (1) 音色の特徴
- (2) 歴史的背景、作曲者の特徴
- (3) 伝統音楽の特徴

2. アドバイス

- 音楽には様々な分野があります。この授業では西洋音楽を土台に、楽典、歌唱、器楽を扱います。
- 器楽ではリコーダーも使用します。ソプラノかアルトリコーダーを用意してください。
- 実技授業です。自分の得意を生かし、積極的に参加しましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

実技試験(授業内)・筆記試験(授業内)・授業での取り組み・提出物

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期	表現法を身につけよう・様々な音楽を鑑賞しよう	34-35 60-69	校歌	歌唱表現	1・3番を暗譜で歌える	☐
			リズムアンサンブル	『Clapping Quartet No.1』	手拍子で作られる様々な音色を工夫しながらアンサンブルをする	☐
			様々な音楽	鑑賞『西洋音楽史』	西洋音楽史の流れを理解し、時代背景と音楽構造についての理解を深める	☐
			楽典	楽譜の読み方 音符・音名	楽典の基礎を身につける	☐
2 学期	様々な舞台芸術を鑑賞しよう・表現形態に応じて表現を工夫	117-131	器楽アンサンブル	器楽表現	表現を工夫して演奏する 曲種に応じた奏法で、アーティキュレーションを生かして表現を工夫する	☐ ☐
			合唱曲	様々な合唱表現	歌詞の内容を感じ取り、イメージを持って歌える	☐
			様々な舞台芸術	ミュージカル、オペラ、歌舞伎、能楽・文楽	西洋、我が国双方の舞台芸術についてそれぞれの特徴・歴史的背景を理解して鑑賞する	☐
			楽典	音程・音階・調	音楽を形づくっている要素を知覚する。	☐
3 学期	創作しよう		グループ発表	発表における表現	アンサンブル経験を積むことによって、個性豊かな表現について考察する	☐
			創作(楽典)	和音	和音進行を理解して、イメージを持って音楽をつくる	☐

令和 3 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	芸術	科目	美術 I (選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	様々な技法を習得するとともに感性を高め創造性を養う。				
教材	高校美術 1				
副教材等	なし				

1. 学習内容

絵の具を中心に美術の基礎的能力を高め、多彩な表現の中で感性と表現能力を高める。

2. アドバイス

日常の中からテーマとなる素材を見つける

アイデアを出すこともトレーニング次第でスピード、質ともにアップする。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

あきらめずに最後まで仕上げること。

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	塑像		手	○鑑賞 ○手のデッサン	手の動きを知る。 モチーフをよく見て描く。	☐ ☐
1学期期末考査	塑像		手	○粘土で手を制作する	デッサンと実物を見ながら、力強く表現する。	☐
2学期中間考査	絵画		デッサン	○具象画・抽象画 ○鉛筆の使い方	具象画・抽象画について理解する。 基本的な鉛筆の使い方を学び、使えるようになる。 形態・明暗を正確に描画する。	☐ ☐ ☐
2学期期末考査	絵画		水彩	○平面構成	画面構成について理解する。 工夫してデザインを考える。 丁寧に製作する。	☐ ☐ ☐
3学期学年末考査	デザイン		妖怪のデザイン	○オリジナル妖怪のデザイン ○鑑賞	オリジナリティあるデザインを考える。 読んだ人に伝わるポートフォリオを作る。	☐ ☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	芸術	科目	書道Ⅰ(選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	書道を通して書を愛好する心情を育てるとともに感性を高める。また、書写能力の向上を図り表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、芸術書道について理解を深める。				
教材	光村図書 書Ⅰ				
副教材等	なし				

1. 学習内容

- ①書写と書道の違いを把握し、芸術科書道の意義を理解します。
- ②歴代の能書家の書法を学び、基本的な筆使いを習得。楷書・行書の特徴を学び臨書します。
- ③臨書で学んだ書風を生かして創作をします。
- ④単体や連綿などの仮名の基本的な用筆法を学び、日本の古筆『蓬萊切』を臨書します。

2. アドバイス

書の楽しさを体感するためには、古典の作品や書道の諸活動を通して、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を身につけていくことが大切です。そのためには基本用筆法をしっかり習得し、「古典の書」をじっくりと鑑賞する機会を持つことや繰り返し古典作品を臨書することをおすすめします。また、書道展や友達の作品を鑑賞することも自身の学びになりますので、積極的に行ってください。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・課題作品 ・授業態度 ・出欠

その他(忘れ物に気をつけること。片付けの際の水道の使い方や道具の管理が出来ているかも見ます。)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査		5-6	書写から書道へ	点画の種類	点画について知る	☐
		132-138	姿勢・執筆法 用筆・運筆	姿勢・執筆法 用筆・運筆	姿勢、執筆法の確認をする 基本的な用筆・運筆を知る 芸術書道について理解する	☐ ☐ ☐
		8-9	漢字の変遷	漢字の変遷	書体の変遷を理解する	☐
		10-17	唐の四大家 虞世南 「孔子廟堂碑」	書家が生きた時代背景等を学ぶ 教科書中の作品鑑賞 説明を聞いて各作品の特徴を知る 筆使いを考えて書く	「孔子廟堂碑」の臨書作品を提出する	☐
1学期期末考査	漢字の書の学習	18-21	唐の四大家 欧陽詢 「九成宮醴泉銘」	書家が生きた時代背景等を学ぶ 教科書中の作品鑑賞 説明を聞いて各作品の特徴を知る 筆使いを考えて書く	「九成宮醴泉銘」の臨書作品を提出する	☐
		22-25	唐の四大家 褚遂良 「雁塔聖教序」		「雁塔聖教序」の特徴を知り臨書する	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	漢字の書の学習	26-31	唐の四大家 顔真卿 「顔氏家廟碑」		「顔氏家廟碑」の特徴を知り臨書する	☐
		34-35	表現を広げよう 「牛橛造像記」	龍門石窟の書、摩崖の書を学びさまざまな表現にふれる	「牛橛造像記」の特徴を知り臨書する	☐
		36-37	「鄭義下碑」		「鄭義下碑」の特徴を知り臨書する	☐
				古典に学ぶ表現の制作	学習した楷書の書風を生かして創作する	☐
2学期期末考査	漢字の書の学習	42-51	行書の学習 王羲之 「蘭亭序」	行書の成立と用筆法 「蘭亭序」を鑑賞し特徴を知る 行書の特徴を考えて書く	行書作品の特徴や用筆法を知る	☐
					「蘭亭序」の特徴を知り臨書する	☐
					半切に臨書する	☐
		54-57	日本の行書 空海 「風信帖」	日本の行書(三筆・三跡)を鑑賞し、特徴を知り臨書する	「風信帖」の特徴を知り臨書する	☐
			年賀状制作	新年にふさわしい賀詞を学び、制作する	新年にふさわしい賀詞を使って小筆で年賀状を書く	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	仮名の書の学習	70 -96	仮名の書の学習	仮名の成立と種類 仮名の用具・用材 仮名の基本的な用筆法 仮名の単体・連綿・変体 仮名	仮名作品の特徴を知る 基本的な用筆法を知る 仮名の単体、連綿、変体仮名 を書いて提出する	☐ ☐ ☐
			蓬萊切	古筆の鑑賞 「蓬萊切」の鑑賞と特徴	「蓬萊切」を料紙に臨書し提出する	☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	芸術	科目	工芸 I (選択)
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	身近な生活で使用するモノに対する関心を持ち、その仕組みや機能について考え、自ら考案、設計しながら、より美しく機能的な作品を制作してみよう。				
教材	工芸 I : 工作用紙、オープン陶芸粘土、ファイバーシートと木の角棒				
副教材等	【毎時間持ってくる物】 教科書、プロジェクトペーパー(設計用) 筆記用具(シャープペンシルではなくHB以上の鉛筆)、定規 【あると便利なもの】色鉛筆w				

1. 学習内容

中学の技術・家庭、美術(工芸分野)で学んだことを生かし、粘土を用いた陶芸、木材を使用した作品を製作していきます。

どのような大きさ、デザインにするのか、最初に考える「設計」がとても大切なので、時間をかけて書いていきます。

また芸術科目であるので、見栄えの良さ、美しさ、バランスを考え追及し、工芸の理念である「生活で利用できる作品」についても深く学びます。

さらに視聴覚授業も時折交えて、海外の現存する建築を含む芸術全般を紹介します。

2. アドバイス

筆記テストはありません。楽しいと思うことがモノづくり＋芸術創作の第一歩です。工芸では日常の暮らしに密着し、生活に使用できる作品作りを通じて、美的感覚を意識・探求します。

困難な局面、失敗することもあります。そのときに課題を克服するために自らのアイデアと創造力を大切にして、作業をすすめていきます。完成度とオリジナリティのある作品を目指してください。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

作品

授業を受ける姿勢

清掃、物品の扱い方など授業に取り組む姿勢

4. 學習指導計畫

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期	紙を知る		紙について	●工芸全般について ●螺鈿と伝統工芸について ●図の書き方 ●紙の性質と工作方法 ●製図・設計 ●制作及び装飾	工作用紙を用いて、実際に使える入れ物作りを行う。紙の性質を知り、正確な工作で丈夫な箱状の入れ物つくりをする。 開閉や構造にオリジナルの工夫をし、入れる品物を想定し、入れやすく、しまいやすい構造を考える。 螺鈿技法と日本の伝統文様について知り、そこから発展させた図案を考案し、作品の装飾にいかす。 等角投影・キャビネット図などを理解して、制作にむけての計画図を描けるようにする。	☐ ☐ ☐
2学期	陶芸		陶芸の基礎	●デザインと道具について ●陶工芸全般の知識 ●身近な陶芸作品の紹介 ●制作方法から作品を計画 ●制作及び焼成	オープン粘土という陶土に近い材料を用いて箸置きを制作する。 ひとつひとつで見ても、集合させたときもおもしろい組作品としてデザイン・制作をする。 見た目と使い勝手の良さを両立させた作品を目指す。 生活とデザインの結びつきについて知り、道具のデザイン性について考える。 陶芸の技法や陶土の性質をよく理解して造形に反映させる。	☐ ☐ ☐ ☐
3学期	照明器具		照明器具の制作	●光の効果について ●建築や住空間について ●制作	曲面を作ることができる耐熱性のシートと、木の角材を用いて、置き型の照明器具をデザイン・制作する。 木の質感や光が空間に与える作用や、素材の特性をふまえて変化のある形を導き出す。 限られた材料から、自立させ安定した構成や、生活に安らぎを与える形を造形する。	☐ ☐ ☐

2021年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	保健体育	科目	体育
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	基本的な体力向上と運動を通して、ルールやマナーなどを学習し、 周囲との協力や責任ある態度を身につける。				
教材	ステップアップ体育スポーツ2020 大修館				
副教材等					

1. 学習内容

○種目については、施設と時間割の関係で決定します。

- ・集団行動 ・新体力テスト ・体力づくり運動
- ・陸上(走運動:短距離・ハードル・持久走、跳運動:走り高跳び)
- ・器械運動(マット運動・跳び箱)
- ・水泳
- ・球技(バスケットボール・ハンドボール・サッカー・バレーボール・卓球・バドミントン)
- ・ダンス(リズムダンス、創作ダンス)
- ・体育理論

2. アドバイス

高校生となって、継続的に基本的な体力向上とそれに伴うバランス感覚など、運動に必要な基礎体力を中心に進めていくことが重要です。運動を楽しく積極的に取り組んでいくことに重点を置くので、自らが積極的に取り組んでいく心がけを忘れないようにしてください。また、自分の体力や運動能力を知り、向上させていくためにはどのようにしたらよいのかを考え、どうしたら楽しく体を動かしながら努力できるのか、個人の体力や運動能力へとつながるのかを考えながら取り組みましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・実技試験 ・授業へ取り組む姿勢や態度 ・その他(見学が多い場合には課題)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期	集団行動	324	整列隊形 ・4列横隊 ・姿勢・礼・整頓 ・行進	集団行動の意味を理解し、積極的に行動することによって能率的で安全に行えるよう基本動作を身につける。	・主な行動様式を身につけた ・迅速で的確に行動できた。 ・お互いに協力し、自己責任を果たせた。 ・リーダーに従い、安全に行動することができた。	☐ ☐ ☐ ☐
	体操(体力づくり)	5	・体力を高める運動 ・体ほぐし ・新体力テスト	体力の向上を目指し、どのような種目であっても取り組めるようにする。 体力テスト。	・運動に必要な体力と専門的運動能力を高め、実践できた。 ・自分の体力診断を理解し、取り組めた。	☐ ☐
通 年	陸上競技	60 74	走種目 ・短距離走 ・中・長距離走 跳種目 ・走高跳び はさみ跳び ベリーロール	STEP:A 走跳の基本的特性に触れ、運動体感を通して楽しさを体験する。 STEP:B それぞれの技能を上達させ、記録向上を目指す。 STEP:C 感覚だけでなく、理論的にも技術を理解し、完成度の高い技能を習得する。	・スタートのフォームチェック。 ・腕を素早く振ること。 ・キックした足のかかとをお尻に引きつける。 ・遠心力を使って飛べる。 ・大きな空中姿勢が出来る。 ・安全に着地できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	体操(器械運動)	29	マット運動 跳び箱	STEP:A 基本技能の習得 STEP:B 基本技能の習熟と発展 STEP:C 高度な技への挑戦	・STEP A・B・Cと基礎技の位置づけ(技の系統性、発展性の関係を理解)を理解し、自分にあった技を選び練習ができた。 ・自分が出来る技の数を増やせた。 ・できた技の質を高めることができた。 ・技の組合せ上の原則や注意点を理解し、連続技の練習ができた。 ・演技構成とその連続技の練習ができた。	☐ ☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
通 年	水 泳	85	クロール	STEP:A 水泳の基礎・基本となる技能を学習し、クロール・平泳ぎである程度長い距離を泳げるようにする。	クロール ・呼吸法が難しいため、基本的フォームが出来たか。	☐
			平泳ぎ	STEP:B 各種泳法の技能を高め、個人メドレーができるようにする。	平泳ぎ ・キックとバランスが難しいため、基本的フォームが出来たか。	☐
			背泳ぎ	STEP:C 得意種目の強化を図るとともに、横泳ぎ、立ち泳ぎ、簡易水球などを通して総合的な水泳能力の向上を図る。	背泳ぎ ・呼吸法は楽だが、力が入ると浮かないため、基本的フォームが出来たか。	☐
			バタフライ		バタフライ ・呼吸法が難しくタイミングが難しいため、基本的フォームが出来たか。	☐
		100	ターン 個人メドレー		ターン、個人メドレー ・クイックターンから4種メドレーが出来たか。	☐
	球 技 (ゴール型・ネット型)	102	バスケットボール	STEP:A 球技の基礎・基本となる技能を学習し、学習の進め方、行い方を楽しみながら学習する。	ボールの特性や道具、体力に合わせて基本的技能を身に付ける。	☐
		124	ハンドボール	STEP:B 各種目の個人技能を高め、工夫を加えて楽しさを深められるようにする。	技能が高まることにより、それに応じた学習を考えながら取り組む。	☐
		142	サッカー	STEP:C 各種目の技能を高めながらチームとして協力しながら作戦を工夫し、相手とのマナーやルールを守る態度を養う。	安全にゲームが楽しめるようにできているか、確認しながら取り組むことができる。	☐
		162	バレーボール			
		198	卓球			
		212	バドミントン			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
通 年	ダンス	279	リズムダンス 創作ダンス	STEP:A イメージやアイデアを生かして運動表現が出来るように発展させていく。 STEP:B みんなの協力で創意工夫してダンスを完成させて発表する。	・自分たちの踊りや表現が見ている人にも体の表現として伝わっているのか。 ・みんながリズムにのせて特徴的なダンスを計画して踊り、安全に最後まで取り組めているか。	☐ ☐
	体育理論	116	効果的な運動技能を高め方 運動スポーツでの戦術 運動スポーツの文化的特徴	体育スポーツの種目ごとにあるルールと運動技能について学ぶ。 オリンピックなどスポーツとの関わり方	・理解できた効果的技能を実践できたか。 ・技や戦術を実践できたか。 ・スポーツに対するとらえ方を理解できたか。	☐ ☐ ☐
		136	運動スポーツの学び方	メンタルトレーニング 体カトレーニング	・ルールや技術向上は、もちろん、効果的に力を発揮するのに運動技能とコントロールが理解できたか。	☐
		158	豊かなスポーツライフの設計	生涯スポーツとしての考え方		

2021年度 文教大学附属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	保健体育	科目	保健
				単位数	1
「学び」の 目標とねらい	現代社会の中で生きていく上で、健康に過ごしていくためには、 どのようにしたら良いかを考え、現代の健康問題とその対策を学習する。				
教材	現代高等保健体育改訂版(大修館)				
副教材等	【必携】 図説 現代保健(大修館) ノート				

1. 学習内容

現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて理解する。
健康に対する関心が変化してきている中で、しっかりとした知識と間違った考えを改める。
時代の流れの中で、健康自体のとらえ方や健康のために人や社会に望まれることも変化し、生活習慣病や薬物、心の問題など健康に関わる問題を理解する。

2. アドバイス

個人の努力だけでなく、社会の一員として地球規模で健康問題を考える意識が必要である。
そのため、常に新聞やニュース、インターネットなどで情報を集め、健康的な生活習慣を身につけたり、生活環境を守るための知識と能力を高めたり、また、生涯スポーツに向けて運動技能を高めたりして、適切な意志決定や行動選択を実践していくこと。
また、学習を実施するうえでは、事前に学習するページを読んでおくこと。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

期末、学年末考査 ・ ノート提出 ・ 授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期 期末 考查	現代 社会 と 健康	6-7	1. 私たちの健康のすがた	・わが国における健康水準の向上 ・わが国における健康問題の変化 ・健康についてのさまざまな考え方 ・健康の成り立ちとその要因	・現在のわが国の健康水準について、時代の変化と諸外国の比較などを通して学習した。 ・客観的な数値にはあらわれにくい健康について考えた。	☐
		8-9	2. 健康のとらえ方	・現代社会における健康の成立要因や条件を学んだ。	・現代社会における健康の成立要因や条件を学んだ。	☐
		10-11	3. 健康に関わる意志決定・行動選択	・意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因と健康的に実現する工夫	・意志決定・行動選択に影響する要因を、個人的なものと社会的なものに分けて学習した。	☐
		12-15	4. 健康に関する健康づくり	・健康づくりを支える環境 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり	・行政や民間機関、国際機関などが行うさまざまな保健活動やヘルスプロモーションの理念に基づき考えてみた。	☐
		16-17	5. 生活習慣病とその予防	・生活習慣病とは ・生活習慣病の予防	・生活習慣病を防ぐ方法を食事・運動・休養および睡眠などから学び、予防への意識を高めることができた。 ・生活習慣病の予防を学んだ上で重要な食生活について個人個人で考えてみた。	☐
		18-19	6. 食事と健康	・健康的な食生活の重要性と意義 ・健康的な食生活習慣の形成	・毎日繰り返される食生活は、習慣化することなので、家庭の協力を得ながら自らが注意・予防することを学んだ。	☐
		20-21	7. 運動と健康	・健康からみた運動の意義 ・健康づくりのための運動習慣の形成	・より健康な体と生活習慣を身につけるために大切な運動を学ぶことができた。	☐
		22-23	8. 休養・睡眠と健康	・健康からみたよりよい休養・睡眠のとり方	・運動によって、食事や睡眠などの生活バランスが保たれることと生活習慣病の予防にも効果があることを学んだ。	☐
		24-25	9. 喫煙と健康	・喫煙の健康影響 ・喫煙開始の要因と依存性 ・喫煙への対策	・喫煙をしたらどのような問題が起こりうるかを、さまざまな角度から考えるようになった。 ・喫煙開始のほとんどは、興味から始めてしまい依存しているケースと喫煙による健康被害の実情を学習した。 ・喫煙への興味を断ち切ることと、分煙化が進んでいること、禁煙外来などもあり、非喫煙に向けて取り組みがなされていることを学習した。	☐
		26-27	10. 飲酒と健康	・飲酒の健康影響 ・飲酒開始の要因と社会問題 ・飲酒への対策	・飲酒するとどのような問題が起こりうるかを、さまざまな角度から考えられるようになった。 ・飲酒に対して、現在どのような対策が取られ、これからどのような対策が必要なのかを知り、上手にお酒とつきあうことを学習した。	☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2 学期 期末 考查	現代社会と健康	28-29	11. 薬物乱用と健康	・薬物乱用と健康影響 ・薬物乱用が引き起こす社会問題 ・薬物に対する対策	・薬物乱用をしたならどのような健康被害が起こるのかを、さまざまな角度から学習した。 ・薬物乱用は、健康被害だけでなく、事件や事故を引き起こす要因ともなり、さまざまな犯罪にも関わってくることを学習した。 ・麻薬や覚醒剤、合法ドラッグ、脱法ハーブなど、さまざまな問題が身近に迫っている危険性を知る。	☐
		32-33	12. 現代の感染症	・感染症とは	・日本だけでなく世界中に広がりをみせている感染症について学ぶ。	☐
		34-35	13. 感染症の予防	・新たに注目される感染症 ・再び問題となっている感染症 ・感染症予防の原則 ・現代の感染症対策	・近年になって多くの新しい脅威の感染症が出現し、今後の動向にも注目される感染症について学ぶ。 ・下火となっていた感染症の再来（再興感染症）についても学び、地球規模で取り組まなければならないことを学習した。 ・環境の変化による感染症の増加が近年起こっていることや病原体に対する感染経路・体の抵抗力などから予防することを学習した。 ・個人で予防することはもちろん、日本ではさまざまなところで検疫活動が行われ、感染症が発生した際にも早急な対応が行われていることを学習した。	☐
		36-37	14. 性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズ ・性感染症・エイズとその予防	・エイズの現状と問題点を指摘し、身近なところに迫っていることを学んだ。 ・エイズに対する学習から検査を受けること、HIVに対する取り扱いまでの予防という観点から学習した。	☐
		38-39	15. 欲求と適応機制	・欲求と脳の働き ・さまざまな欲求	・人間の欲求にはどのような種類があり、また、どのような欲求が生じるかを知ることができた。	☐
		40-41	16. 心身の相関とストレス	・欲求不満と適応機制 ・心身相関のしくみとストレス	・欲求不満から生じる不安や緊張・悩みに対する適応機制のさまざまな例を交えて理解できた。	☐
		42-45	17. ストレスの対処	・ストレスの影響と心の健康 ・気分転換やリラクゼーションによる対処 ・信頼できる人や専門家への相談	・心の働きと体の働きが相互に影響しあう関係について学習した。 ・ストレスはどのような状態であるかを説明し、ストレスの原因をあげられるようにする。 ・ストレスについて自分でとることの出来る対処法を考えられるようになった。	☐
		46-47	18. 心の健康と自己実現	・自己実現と心の健康との関係	・気分転換や気持ちの持ち方次第でもストレスのかかり方が大きく違うことを学習した。	☐

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	家庭	科目	家庭基礎
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	自分の生活を振り返って、背景にある原理や仕組みを理解し、よりよい生活を創造するために、知識や技術、自分なりの考え方、価値観を育もう。				
教材	最新家庭基礎 生活を科学する(教育図書)				
副教材等	【必携】資料集、準拠ノート 【あると便利なもの】 ※ノートを自分で用意する必要はありません。				

1. 学習内容

自分の人生や生活を深くみつめます。自分にとっての「よりよい生活」、「よりよい人生」とはどのようなものかを実践的・体験的な学習活動を通して考え、人としての自立を目指します。

家庭基礎では「自分の生活・人生について考える・体験する・身に付ける・向き合う・展開する」をテーマにしています。

2. アドバイス

- 1 真剣に自分自身と向き合うこと
- 2 あらゆることに興味・関心を持って取り組むこと
- 3 ものごとに対してより深い思考・判断ができ、それを表現できるようになること
- 4 授業内ですべき課題は、授業内で終わらせること

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

定期考査
平常点(課題、製作作品、授業に取り組む姿勢)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標 (以下のことが理解できるようにすること)	確認欄
1学期中間考査	自立	4-23	青年期の自立と家族	人の一生とライフステージ 現代の家族 家庭生活の成り立ち 家族と社会	●各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯を見通した上で青年期の生き方を考える。	☐
		50-63	高齢期の生活	超高齢社会を生きる 高齢期の心身の特徴と暮らし 高齢期の暮らしを支えるしくみ	●社会の変化に伴う家族・家庭の変化や特徴を理解する。 ●家庭生活を支える労働を理解し、男女が協力して家庭をつくる意義の理解を深める。 ●家庭生活を支える基本的な法律について理解する。 ●現代の家族問題と、解決のための社会的な仕組みについて理解する。 ●自分の将来像としての高齢期について考えることができる。 ●高齢期の心身の特徴について理解する。 ●高齢期の生活や、それを取り巻く社会問題について知り、高齢期を支える基本的な制度や仕組みについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
1学期期末考査	自立	120-143	衣生活	衣服を着る 衣服の成り立ち 衣服と消費者 衣服の手入れ 被服実習	●人間の生活と衣服のかかわり、衣服の主な機能を理解する。 ●色彩の基本を理解する。 ●衣服の素材(繊維・糸・布)の種類や特徴について理解する。 ●衣服素材の、性能や着心地・構成について理解する。 ●衣服の表示から得られる消費者情報を活用できる。 ●洗濯の特徴を科学的に理解し、衣服表示に基づき適切な洗濯・仕上げ・保管ができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	外国語	科目	コミュニケーション英語 I
				単位数	4
「学び」の 目標とねらい	偉人の生き方や社会の出来事について学び、共感したことや自分の意見を論理的に相手に伝える力を養います。				
教材	『Revised LANDMARK English Communication I 』(啓林館) ※この教科書は 2・3 年生でも使用します。大切に使いましょう。				
副教材等	【必携】 『予習ノート』（啓林館），『総合英語 Evergreen』（いっずな書店） 【あると便利なもの】 『Evergreen 25 Lessons』（いっずな書店）				

1. 学習内容

中学に引き続き、英語の基礎となる「話すこと」「聴くこと」「読むこと」「書くこと」の 4 つの力を総合的に伸ばします。高校でも、教科書では多岐に渡った心を揺さぶられるトピックをたくさん扱います。文章の表面的な意味をただ理解するだけでなく、一歩進んで、自分はそのテーマについてどう思うのか、しっかり人に意見を言えるような力を養います。

高度な英語力を習得することは単なる出発点であって、英語学習の目的ではありません。英語を使って何が出来るかが重要です。英語はコミュニケーションツールであり、英語力のみで皆さんの人物や能力が評価されることはありません。授業では英語力だけでなく、日本を含めた世界の国々の文化や民族問題等についても学びます。

2. アドバイス

①コツコツトレーニングすることを怠らないこと。

英語は実技教科なので、何度も練習することが大切です。苦手なことでも、練習すれば必ず出来るようになります。バスケットボールで考えてみましょう。ドリブルやシュート、パスの基礎ができていないのに、試合に勝つことはできませんよね。授業で正しいドリブル、シュート、パスのやり方を覚え、自分が苦手なところを練習し、実力がついて初めて試合(実際の英会話、定期考査や英検など)で勝つことが出来るのです。CD を聞きながら、同じ速さ、同じアクセント(強弱)で話せるように練習しましょう。地味なトレーニングを怠らないようにしましょう。

②少なくとも英検準 2 級、国際系統の学部を志望する人は英検 2 級合格を目指してトレーニングしましょう。各種試験で安定した点数を取り、難関大学を突破するためには、高 1 でこのレベルに達していることは必須です。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

・定期考査　・平常点(授業態度・宿題・課題・実技試験など)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	自己紹介 大衆・比較文化 食物・歴史	6	Preparatory Lesson 1	主語と動詞	高校英語の学習に必要な基礎知識を身につける。	☐
		7	Preparatory Lesson 2	品詞		☐
		8	Preparatory Lesson 3	句と節		☐
		9	Preparatory Lesson 4	フレーズ		☐
		10-21	Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us?	動名詞 不定詞	本文内容理解 文法理解 血液型を含めて英語で自己紹介する。	☐
						☐
						☐
						☐
		22-35	Lesson 2 Curry Travels around the World	分詞の後置修飾 現在完了形	本文内容理解 文法理解 自分好みのカレーについて意見交換をする。	☐
						☐
						☐
						☐
1学期期末考査	比較文化 動物・環境	36-49	Lesson 3 School Uniforms	関係代名詞 S＋V＋疑問詞節 S＋V＋O＋疑問詞節	本文内容理解 文法理解 日本と海外の制服事情について理解する。	☐
						☐
						☐
						☐
		50	Tips for Listening 1	まぎらわしい音	英語の音声の特徴について理解し、聞き取れるようにする。	☐
		51	Tips for Listening 2	アクセント		☐
						☐
						☐
		58-71	Lesson 4 Gorillas and Humans	seem の用法 現在完了進行形	本文内容理解 文法理解 絶滅危惧種についてレポートを書き発表する。	☐
						☐
						☐
						☐
夏休み			●夏期講習 ●副読教材 ●その他、授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	言語・文化 環境・生き方	72-85	Lesson 5 “gr8” or great?	It ～ that の形式主語 構文 知覚動詞＋O＋動詞の 原形 / 現在分詞	本文内容理解 文法理解 英語圏の若者が用いる新種の 言語について理解する。	☐ ☐ ☐
		86-99	Lesson 6 Biodiesel Adventure	過去完了形 使役動詞＋O＋動詞の 原形	本文内容理解 文法理解 環境に優しい活動について意 見交換をする。	☐ ☐ ☐
		100 101	Tips for Listening 3 Tips for Listening 4	強い音・弱い音 つながる音	英語の音声の特徴について理 解し、聞き取れるようにする。	☐
2学期期末考査	環境・世界遺産 女性・職業	102-115	Lesson 7 Eco-tour in Yakushima	前置詞＋関係代名詞 関係副詞	本文内容理解 文法理解 訪れてみたい日本の世界遺産 について書き発表する。	☐ ☐ ☐
		124-137	Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter	分詞構文 関係代名詞 what	本文内容理解 文法理解 通訳の仕事について理解し、 職業について意見交換する。	☐ ☐ ☐
冬休み			●冬期講習 ●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	宇宙・科学 人権・友情	138-151	Lesson 9 Space Elevator	倍数比較 仮定法過去	本文内容理解 文法理解 もしスペースエレベーターで宇宙へ行けたら何をしたいかについて意見交換をする。	☐ ☐ ☐
		152	Tips for Listening 5	聞こえなくなる音	英語の音声の特徴について理解し、聞き取れるようにする。	☐
		153	Tips for Listening 6	変わる音		
		154-167	Lesson 10 Friendship over Time	関係代名詞非限定用法 仮定法過去完了	本文内容理解 文法理解 もし自分が大島村民であったら どういう行動をしたかについて 自分の意見を書き発表する。	☐ ☐ ☐
春休み			●春期講習 ●授業時に指示する。			

2021 年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	外国語	科目	英語表現 I
				単位数	2
「学び」の 目標とねらい	中学 3 年間で身につけた力を土台にし、英語を使ったコミュニケーションを通して社会の様々な場面を想定した英語力を養います。				
教材	『MAINSTREAM English Expression I』（増進堂）				
副教材等					

1. 学習内容

中学校 3 年間で学んだ英語を土台として、この授業では実際に英語を「使う」ことによって、皆さんの英語力をつけていきます。

授業は基本的にネイティブスピーカーの先生と、日本人教員の 2 人で、英語で行います。日本では、小学校・中学校・高校・大学で 10 年以上も英語を勉強するのに、なかなか英語を話せるようにならないのは、「実際に英語を使って話してみる」という壁を多くの日本人が超えられないからです。授業ではこの壁を打ち破って、実際に英語を「わかる」から「使える」レベルにできるようにしていきます。

1 月のスピーチコンテストに向けて、パワーポイント等を使っての発表をしていきます。発表を通じて話す力、書く力、読む力、聴く力の 4 技能を伸ばしていきましょう。

2. アドバイス

学習の到達度を図るために、GTEC や英検を受験します。1 年生のうちに練習と問題演習を重ねて、「GTEC スコア 450 点以上」「英語検定準 2 級～2 級取得」を目指してください。1 年次にこの 2 点をクリアする程度の英語力が、「難関大学」を目指すために必要な英語力の目安だと考えてください。

そのためには英語の処理速度を上げることが必要です。これは、長文をただ眺めているだけでは力がつきません。家では音読練習を行い、同じ速度、同じ高さ、同じ強弱で教科書を読めるようになるようにトレーニングをしましょう。また、授業では積極的に英語で自分の意見を人に伝えましょう。

英語が話せるようになることは、自転車を漕ぐことと似ています。一度乗れるようになれば、もう漕ぎ方は忘れないし、自転車を使えば遠くまで行くことができ、今まで見たことのないような、違う世界を見ることができますよ。一緒に頑張りましょう。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・平常点(小テスト・発表[スピーチ]・授業態度・宿題・課題・提出物など)

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1学期中間考査	自分自身のことを伝えよう	6-7	Lesson 1 Nice to Meet You	文の要素	文の要素について理解し、英語で自己紹介する。	☐
		8-9	Lesson 2 What Kind of Music Do You Like?	現在形	現在形の性質を理解し、自分の好きな音楽を英語で書く。	☐
		10-11	Lesson 3 My Treasure	過去形	過去形の性質を理解し、自分の大切なものについて英語で書く。	☐
		12-13	Lesson 4 This Coming Weekend	未来の表現	未来を表す表現を学び、週末の予定を英語で書く。	☐
		14-15	Grammar		Lesson 1～4 の文法を復習する。	☐
		18	What Is This in English?		カタカナ英語と実際の英語の違いを理解する。	☐
1学期期末考査	日常生活を語ろう	20-25	Lesson 5 Subjects I'm taking	進行形	進行形の働きを理解し、自分の勉強している科目について英語で書く。	☐
		26-31	Lesson 6 Are You in a Club?	現在完了形	現在完了形の働きを理解し、クラブ活動について英語で書く。	☐
		32-37	Lesson 7 The School Festival Is Soon	現在完了進行形 過去完了形	現在完了進行形、過去完了形の働きを理解し、文化祭について英語で書く。	☐
夏休み			●スピーチコンテスト原稿 ●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2学期中間考査	日常生活を語ろう	38-43	Lesson 8 Getting to Asahi Senior High School	助動詞 命令文	助動詞、命令文の働きを理解し、英語で道案内ができるようになる。	☐
		44-49	Lesson 9 The Store I Often Go to	受動態	受動態の形とその働きを理解し、よく行く店について英語で書く。	☐
		50-55	Lesson 10 I Feel Sick	不定詞	不定詞の働きを理解し、健康状態について英語で表現する。	☐
2学期期末考査	社会・世界を考えよう	59-64	Lesson 11 Volunteer Activity	動名詞	動名詞の働きを理解し、ボランティア活動について英語でメールを書く。	☐
		65-70	Lesson 12 Japanese Food	分詞	分詞の働きを理解し、日本の食べ物について英語で説明する。	☐
		71-76	Lesson 13 Countries Around The World	関係代名詞	代名詞の働きを理解し、留学に関する手紙を英語で書く。	☐
		77-82	Lesson 14 Reduce, Reuse, Recycle	関係副詞	比較の用法を理解し、ゴミ問題について英語で学校新聞の記事を書く。	☐
冬休み			●授業時に指示する。			

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
3学期学年末考査	発表しよう	83-88	Lesson 15 We Are What We Eat	関係副詞	関係副詞を理解し, 食べ物についての意見をまとめて, 英字新聞の読者欄に投稿する。	☐
		89-94	Lesson 16 An Impressive Book	仮定法	仮定法の働きを理解し, おすすめの本について英語でブックレビューを書く。	☐
		100-105	Lesson 17 Performing a Skit		スキットに触れ, 演じる技術を学習した上で, 実際にスキットを書いて発表する。	☐
		106-109	Lesson 18 Making a Presentation		発表のサンプルを聞き, 段階を踏んで効果的な発表の方法について学んだ上で, プレゼンテーションをする。	☐
春休み			●授業時に指示する。			

令和3年度 文教大学付属高等学校 年間シラバス

学年・組	1 年 1～8 組	教科	情報	科目	社会と情報
				単位数	1
「学び」の 目標とねらい	情報社会における基礎知識に加え、タイピング技術や office 系ソフトなど今後必要となるコンピュータ操作技術の基礎を身に着ける				
教材	『最新 社会と情報』実教出版				
副教材等	【必携】なし 【あると便利なもの】クリアファイル等の配布プリントを管理できるもの ※授業はプリント中心に進むため、きちんと管理・保管すること				

1. 学習内容

1学期は、windows と日本語入力の基本操作に関して中学までのパソコンリテラシの学習内容を復習するとともに、情報技術の基礎となる2進数について学習する。後半ではプログラミングの基礎となるブロック型から、テキストコーディングの入門である HTML/CSS を学習する。

2学期は、デジタルデータの扱いを中心に、現代の情報の伝達方法・表現方法や、Web ページ作成を通してページの構造やデザイン、画像や地図の統合を学ぶ。

3学期は、表計算ソフトの基本操作と共に、データの整理方法を学ぶ。

2. アドバイス

近年、小学校では様々な教科でパソコンをはじめとするデジタル機器を利用し、中学校の技術家庭ではパソコンの構造やワープロの操作なども学習することになっています。ですが、その学習内容は学校によって、また担当する先生によっても異なり、パソコンなら思い通りに使える、という人がいる一方で、キーボード入力にも自信がない、という人もいます。

この授業では、すべての生徒がパソコンの基本的な操作方法を習得し、場面に応じて適切なデジタル機器を使った自己表現ができるようになることを目指しています。

実習を中心としますが、机上での学習や覚えることもたくさんあります。実習課題は多いですが、授業中に真面目に取り組めばこなせる内容ですので、集中して授業を受けることを期待します。

3. 成績をつけるにあたり考慮すること

- ・定期考査
- ・授業内課題
- ・授業を受ける姿勢

4. 学習指導計画

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
1 学期期末考査	パソコンリテラシ	プリント	パソコンリテラシ	授業ガイダンス 教室使用上の注意 タブレット使用上の注意	・P 検 5 級で現在のパソコンリテラシの知識チェック ・タイピングレベルチェック	☐ ☐
				校内ネットワークについて	・個人領域と共有フォルダの用法を理解	☐
				Windows と日本語入力に関する基礎知識と基本操作について	・日本語入力方法とファンクションキー/Ctrl キーの使い方の理解	☐
	デジタル表現と情報社会	40-45	情報機器とデジタル表現 1. 情報機器とデジタル	アナログとデジタルの違い コンピュータ内の情報の表し方(2 進数) n 進数への変換	・アナログとデジタルの特徴を理解する ・2 進数の変換 ・n 進数の変換	☐ ☐ ☐
		30-37	情報社会と私たち 3. 情報モラルと社会のルール	産業財産権と著作権 著作物とは何か 著作権の例外規定	・知的財産権の概要について理解する ・著作物の範囲と著作権の例外規定について理解し、著作物を適切に扱うことができる	☐ ☐
	Web ページ作成	158-165	プログラミング入門 Web ページ作成に向けて	プログラミングとは テキストコーディングの基本 写真の撮影	・受け手を意識して、Web ページの企画立案ができる ・練習ソフトを使用して Web ページを作成することができる ・著作権を理解して写真の撮影を行うことができる	☐ ☐ ☐

時期	テーマ	教材頁	単元名	学習内容	到達度目標	確認欄
2 学期期末考査	情報のデジタル化とネットワーク	46-53	情報機器とデジタル表現 2. デジタル表現	文字のデジタル化 情報量の単位 画像のデジタル化	・文字コード表を利用して文字を 16 進数や 2 進数に変換することができる ・単位の大きさを理解し、比較することができる ・画像を 2 進数で表現する仕組みを理解する	☐ ☐ ☐
		114-127	コミュニケーションとネットワーク 2. ネットワーク	ネットワークの特性と仕組みについて学ぶ	・回線交換方式とパケット交換方式について理解する ・データの転送速度と圧縮形式について理解する。	☐ ☐
	Web ページ作成	オリジナルカリキュラム	Web ページ作成 相互評価	オリジナル Web ページの作成 写真の取り込みと Web ページへの統合	オリジナルの Web ページを作成することができる 写真や地図などのメディアを 1 つのデータにまとめることができる	☐ ☐
				発表と相互評価および修正	・発表・相互評価 ・相互評価をもとに修正を加える	☐ ☐
3 学期学年末考査	表計算	76-93	表現と伝達 2. 表計算ソフトの利用	Excel の基本操作を課題で学ぶ	Excel の基本操作の習得 ・演算子を用いた計算 ・関数の利用 ・絶対参照 ・関数のネスト	☐ ☐ ☐ ☐